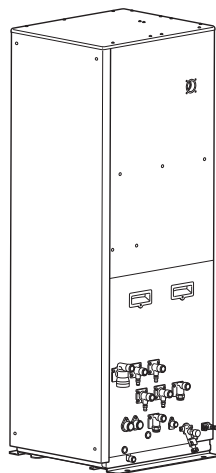


設置工事説明書

給湯加圧タンクユニットシステム

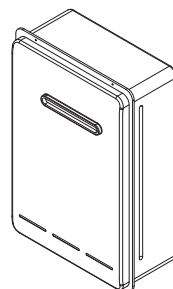
タンクユニット

●タンクユニット



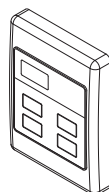
RPTU-500-BG1
RPTU-500-BG2
(屋外・屋内設置兼用)

●ガス熱源機



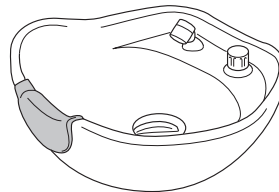
RUXC-A1610W
RUXC-A2400W
(屋外設置専用)

●リモコン



MC-91-1

●シャンプー台 (サーモスタット式混合水栓付)



工事をされる方へのお願い

初めに本説明書をお読みいただき工事してください

- タンクユニットは屋外・屋内設置兼用です。
- 本システムを正しく安全にご使用していただくために、この「設置工事説明書」をよくお読みになって指定された工事を行ってください。本書の記載条件をはずれた設置が原因で生じた故障などは、工事者責任となります。
- 工事終了後にはお客様に使用方法・保証の内容をよく説明のうえ、「設置工事説明書(本書)」をお渡しください。
- ガス配管工事はガス熱源機の設置工事説明書を参照ください。

ガス熱源機の設置工事は、ガス熱源機に同梱した設置工事説明書に従って工事を行ってください。
「ガス機器の設置基準及び実務指針」(一般財団法人日本ガス機器検査協会刊)も併せてお読みください。

Rinnai

最初にお読みください

給湯加圧タンクユニットシステムは複数の機器で構成しています。

そのため、設置工事説明書、取扱説明書が各々の機器（タンクユニット・ガス熱源機・リモコン）ごとに同梱されています。

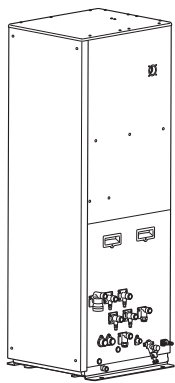
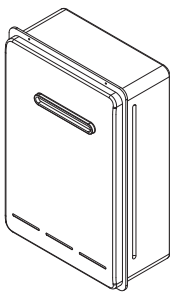
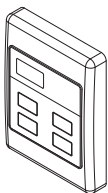
下記の説明に沿って設置工事説明書をお読みいただき、正しく設置していただけるようお願い致します。

●最初にそれぞれの製品に同梱されている印刷物を確認します

下記の取扱説明書および設置工事説明書がすべてそろっているか確認します。

①を中心に②～③およびシャンプー台工事説明書をお読みいただき工事してください。

①～⑤は工事終了後お客様へお渡しください。

 タンクユニット	 ガス熱源機	 リモコン
①タンクユニット 設置工事説明書	②ガス熱源機 設置工事説明書	③リモコン設置 工事説明書
④タンクユニット 取扱説明書（保証書付）	⑤ガス熱源機 取扱説明書（保証書付）	

※そのほかにチラシなどが入っている場合があります。

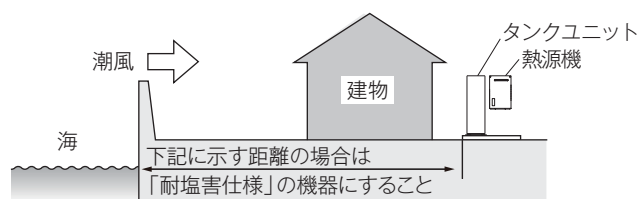
本説明書はタンクユニットを中心に、ガス熱源機も含めた設置方法を説明しています。最初に本説明書をお読みいただき、内容に合わせて他の設置工事説明書もお読みください。

耐塩害仕様について

耐塩害仕様のタンクユニットなどは特注品です。

下記の条件を満足する場所に設置することを必ずお守りください。

- 建物の影になるなど、海水飛沫および潮風が直接当たらない場所



<海からの距離>

タンクユニット・ガス熱源機：300 m未満

「耐塩害仕様」の機器を使用した場合でも腐食に対し万全ではなく、設置場所などには十分にご配慮ください。

もくじ

●最初にお読みください	1
●もくじ	2

準備

1 安全上のご注意	3
2 設置プラン	7
3 工事の流れ	8
4 各部の名称と寸法	9
5 必要部材	10
6 付属部品	11
7 別売部品	12

設置

1 設置場所の確認	13
2 基礎工事	15
3 搬入	19
4 設置	20

配管

1 配管工事手順	21
2 ①一次給水配管工事	23
3 ②③ガス熱源機往・戻配管工事	24
4 ④⑤給湯・給水配管工事	26
5 ⑥オーバーフロー排水配管工事	28
6 ⑦排水配管工事	28
7 ⑧ガス配管工事	30
8 配管断熱	30

配線

1 電気工事(信号線)	32
2 電気工事(電源)	35
3 電気工事(アース)	37
4 外気温サーミスタの取り替え工事	39

点検

設置工事後の確認	40
----------	----

水はり

1 水はり説明	42
2 準備	43
3 タンクの水はり	44
4 給湯戻配管の水はり	45
5 ガス熱源機の水はり	47
6 ストレーナの清掃	48
7 水はり完了の記憶	49
8 水はり工程操作のまとめ	50

設定

機器の設定	52
-------	----

試運転

1 燃焼確認	53
2 流量確認	53

水抜き

試運転後の水抜き	54
----------	----

確認

1 試運転後の確認	57
2 お客様への説明	57

準備 1 安全上のご注意

本システムを安全に設置・使用していただくために、下記のことを必ずお守りください。これらの注意事項は安全に関する重要な内容です。表示と意味は次のようになっています。

表 示	意 味
 危険	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示については次のような意味があります。

表示	意 味
	一般的な禁止
 アースする	必ずアース線を接続する

表示	意 味
	必ず行うこと

 警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
---	---

設置工事は専門の資格者が行う

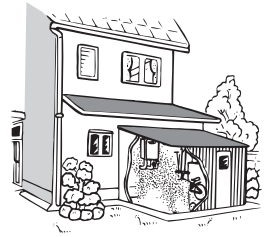
- 機器の設置・移動および付帯工事には専門の資格・技術が必要です。設置工事は必ずお買い上げの販売店または施工店に依頼し、有資格者による正しい工事が行われるようにしてください。お客様ご自身での設置工事は絶対に行わないでください。思わぬ事故や故障の原因となります。

警告

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

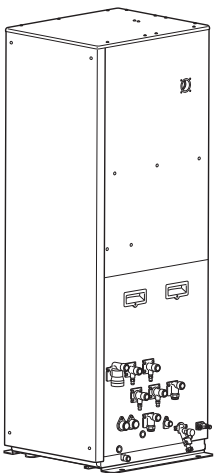
工事される方へ

- ガス熱源機は屋外設置専用です。絶対に屋内(波板囲いを含む)には設置しないでください。ガス熱源機の不完全燃焼や一酸化炭素中毒の原因になり大変危険です。
- この機器を安全に正しくご使用いただくため、この「設置工事説明書」をよくお読みになり正しい設置工事を行ってください。この「設置工事説明書」の記載によらない設置が原因で生じた故障および損傷・人身事故などは工事者の責任となります。また、保証期間内でも保証の対象となりません。
- 設置工事は本書の他、電気事業法、建築基準法、ガス事業法、消防法、電気工事士法、電気設備に関する技術基準、内線規定、消防法に基づく火災予防条例、各市町村水道局の条例、ガス機器の設置基準及び実務指針など関係する法律・条例・基準を遵守してください。これらの設置条件を満たさない設置が原因で生じた故障および損傷・人身事故などは工事者の責任となります。また、保証期間内でも保証の対象となりません。



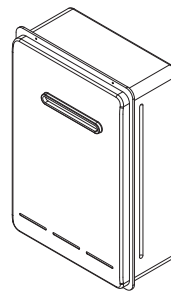
- このシステム構成は、次の型式のユニットで接続してください。他の機種との組み合わせはできません。

● タンクユニット



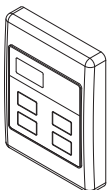
RPTU-500-BG1
(ガス熱源機 1 台設置用)
RPTU-500-BG2
(ガス熱源機 2 台設置用)
※耐塩害仕様の場合
は「-EG」が追加さ
れている場合があ
ります。

● ガス熱源機



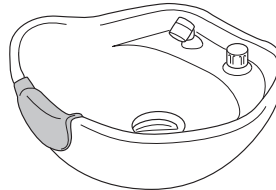
RUXC-A1610W
RUXC-A2400W

● リモコン



MC-91-1

(シャンプー台)



- ※ガス熱源機を 1 台設置する場合、タンクユニットには RPTU-500-BG1 を使用してください。
ガス熱源機を 2 台設置する場合、タンクユニットには RPTU-500-BG2 を使用してください。
- ※ガス熱源機には RUXC-A1610W (16 号) と RUXC-A2400W (24 号) が選択できます。
ガス熱源機を 2 台設置する場合は必ず同じ機種にしてください。
- ※シャンプー台カランにはサーモスタット式を選択してください。
水栓金具にはビューティガレージ製 (型式: MW-240BG4-124-25-45) もしくは TOTO 製 (型式: TL45PR もしくは TL45SR) をご使用ください。



警告

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。



■熱いとき、接続口や水抜き栓にはさわらない

運転中および停止直後は熱くなっており、やけどのおそれがあります。

■ガス熱源機は屋内に設置しない。

■可燃性ガスや引火物の近くに設置しない

発火・火災になるおそれがあります。

アース工事



アースする

■必ずアース工事(D種接地工事)を行う

工事は「電気工事に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事士が行う。故障・漏電したときに感電事故の原因になります。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線には接続しないでください。接地工事が不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

施工確認



■火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事や水道工事はそれぞれ指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る

資格・指定のない方が工事をする
と法令違反になる場合があります。

■上水道直結の配管工事は、当該水道局(水道事業管理者)の認定水道工事業者が指定された配管材料を使用して施工する

事故、故障の原因になります。

■専用の配線用しゃ断器を単独で使う(ガス熱源機・タンクユニット)

他の機器と併用したとき、発熱による火災の原因になります。

■電源電線は確実に取り付ける

発熱して火災の原因になります。

■重量に十分耐えられるところに据え付ける

転倒により事故の原因になります。

■試運転時に漏電しゃ断器の作動を確認する

万が一の不作動で、故障や感電の原因になります。

■工事は配線用しゃ断器、製品の漏電しゃ断器を「切」にしてから行う

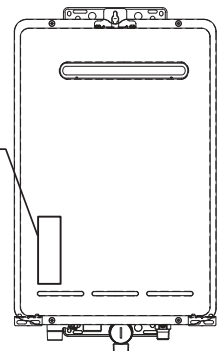
電気部品に触れると感電の原因になります。

⚠ 注意

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- タンクユニットは単相2線式 AC100V (50-60Hz 共用) です。所定電源以外を使用すると火災や故障、感電の原因となります。
- ガス熱源機の使用するガスの種類 (ガスグループ) がガス熱源機の銘板に表示してあるガス種と一致しているか確認してください。表示以外のガスを使用すると不完全燃焼や異常点火、故障の原因となりますので使用しないでください。
- この機器は理美容院向けです。一般家庭用途にはご使用にならないでください。

ガス熱源機の銘板は、フロントカバーのここに貼ってあります。



<ガス熱源機>



■防水・排水処理をしていない床面に設置しない

屋内・階下などに浸水し、家財などをぬらす原因になります。

■冠水するところには設置しない

冠水すると漏電や感電事故のおそれがあります。

■外気温が -10°C 以下の地域では設置しない

外気温度が -10°C 以下では、機器故障のおそれがあります。

■キッチンの換気扇の近くには設置しない

油分の付着や排気により性能低下や機器故障の原因になります。

■次の場所には設置しない 機器故障の原因になります。

- ・水平でない場所や不安定な場所
- ・階段・避難口などの付近で避難の支障となる場所
- ・排水のしにくい場所
- ・耐塩害地 (塩害仕様は除く)
- ・強風の当たる場所
- ・潮風が直接当たる場所

■タンクユニットは、小動物のすみかになるような場所には設置しない

小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

施工確認



■機器に接続する配管設備は、地震その他の振動または衝撃に対して安全上支障のないように設置する

水漏れが起きたとき、大きな被害の原因になります。

■水道水を使用する (温泉水・地下水・井戸水は使用不可)

水質基準に適合しない水を使用すると、故障や水漏れの原因になります。

■配管および接続口の保温材は確実に施工する

経時変化ではがれたりすると、やけどのおそれがあります。

■別売部品はこの機器指定 (推奨) のものを使用する

指定 (推奨) 外の部品を使用すると、故障・誤動作の原因になります。

■床面の防水・排水処理を行う

水漏れが起きたとき、大きな被害の原因になります。

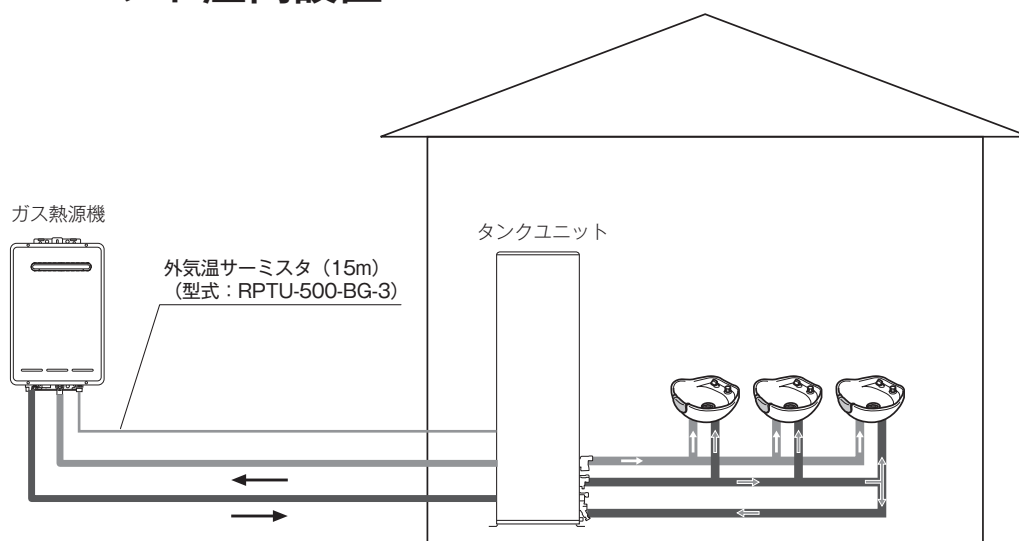
■排水工事は設置工事説明書に従って確実に行う

周囲が浸水し、家財などをぬらす原因になります。
オーバーフローからの排水およびその他排水ができること。

■一次給水配管を分岐して給水配管やガス熱源機往配管 (21 ページ参照) に接続しない

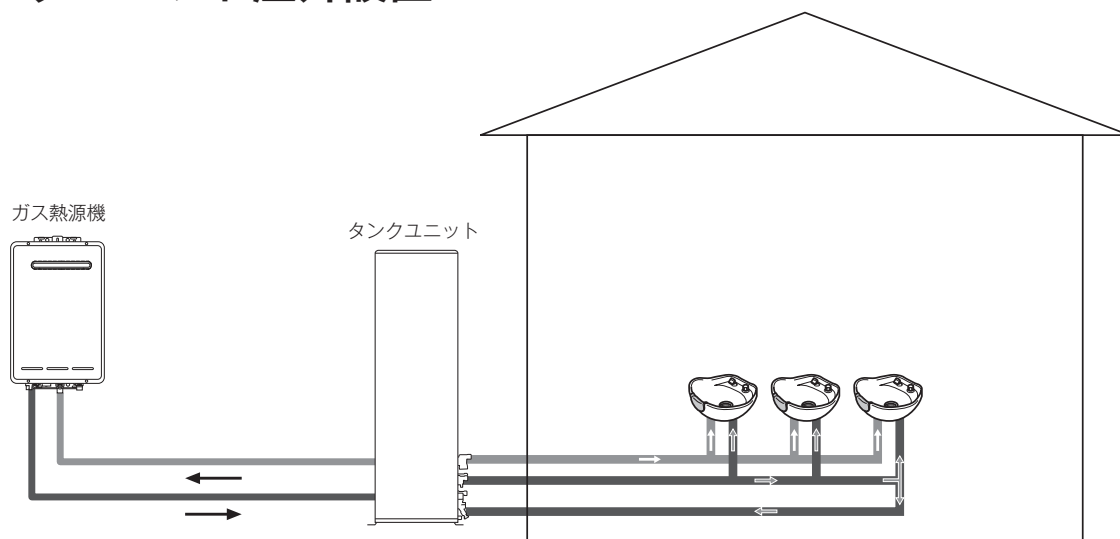
準備 2 設置プラン

●タンクユニット屋内設置



- タンクユニット屋内設置の場合、外気温サーミスタ引き回す作業が必要となります。（詳細は 39 ページ「外気温サーミスタの取り換え工事」をご覧ください。なお、別売部品「外気温サーミスタ (15m) RPTU-500-BG-3」と「熱源機通信線 (15m) RPTU-500-BG-4」が必要となります。
- タンクユニット屋内設置の場合、「機器の設定」作業時にタクト設定を「b 屋内設置」に設定してください。（詳細は 52 ページ「機器の設定」をご覧ください。

●タンクユニット屋外設置



- タンクユニット屋外設置の場合、外気温サーミスタ引き回す作業は不要です。
- タンクユニット屋外設置の場合、「機器の設定」作業時にタクト設定を「A 屋外設置」に設定してください。（詳細は 52 ページ「機器の設定」をご覧ください。

準備 3 工事の流れ

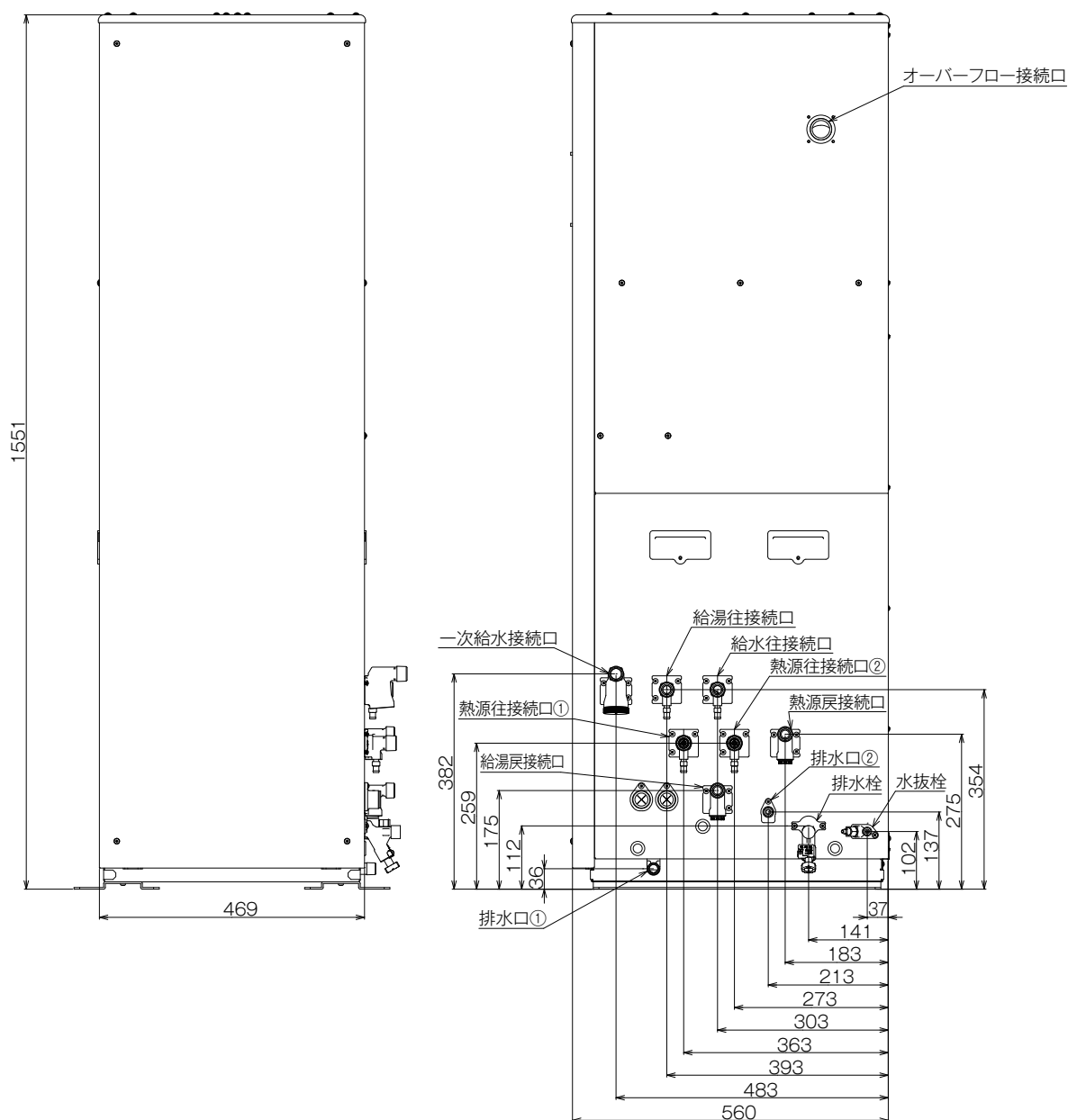
●標準的な工事の流れを示します。工事順序は状況に応じて順不同でも構いません。

工事順序	工事名	主な工事
1	設置場所の確認	各機器の据付制約の確認、配管の取り回し確認、電気設備の確認
2	必要部材の確認	必要な部材の確認・発注
3	付属部品の確認	
4	別売部品の確認	必要な部材の確認・発注
5	基礎工事	基礎および排水ホッパー・一次給水配管・ガス管の基礎への立ち上げ
6	搬入・設置	タンクユニット・ガス熱源機・リモコン・シャンプー台
7	一次給水配管工事	タンクユニットへの接続・保温工事（ヒーター含む）
8	ガス熱源機往配管工事 （タンクユニット⇔ガス熱源機）	ガス熱源機往配管の接続・保温工事
	ガス熱源機戻配管工事 （タンクユニット⇔ガス熱源機）	ガス熱源機戻配管の接続・保温工事
9	給水配管工事 （タンクユニット⇔シャンプー台）	給水配管の接続・保温工事（ヒーター含む）
	給湯（給湯戻含む）配管工事 （タンクユニット⇔シャンプー台）	給湯配管の接続・保温工事
10	ガス配管工事	ガス熱源機へのガス配管接続
11	排水配管工事	オーバーフロー配管（塩ビパイプ）・缶体保護弁用排水チューブ その他排水配管 3 本を排水ホッパーに導く
12	電気工事（信号線）	熱源機通信線（タンクユニット⇔ガス熱源機）・リモコンの接続
13	電気工事（電源）	タンクユニット・ガス熱源機の電源線の接続
14	電気工事（アース）	D 種設置工事
15	水はり	タンクユニット・ガス熱源機・給水・給湯配管への水はり 各部水漏れ確認
16	凍結（結露）防止工事	配管保温工事・ヒーター取り付け
17	試運転・設定	燃焼確認、各種設定
18	操作説明・引き渡し	お客様への操作説明

準備 4 各部の名称と寸法

(単位：mm)

●タンクユニット



接続口	接続口口径
一次給水	20A(R3/4)
給湯往	20A(R3/4)
給水往	20A(R3/4)
熱源往①	20A(R3/4)
熱源往②※	20A(R3/4)
熱源戻	20A(R3/4)
給湯戻	20A(R3/4)
排水栓	15A(G1/2B)
排水口①	15A(R1/2)
排水口②	15A(R1/2)
オーバーフロー	VP30

※ RPTU-500-BG1（ガス熱源機 1 台仕様）の場合、熱源機往接続口②はありません。

準備 5 必要部材

- このシステムの設置には下記の部材が必要となりますので、工事を始める前に
施工業者様にてご用意する必要があります。
なお、下表の部材の他にも配管の継手などが別途必要となります。
- ガス熱源機の必要部材についてはガス熱源機の設置工事説明書をご覧ください。

工 事 名	工 事 部 位	必 要 部 材	備 考
据付工事	タンクユニット	基礎工事用生コンクリート 排水ホッパー（市販品） アンカーボルト・ワッシャー・ナット（M10 または M12）	アンカーボルトなどのサイ ズは 16 ページを参照して ください
	ガス熱源機	ガス熱源機の設置工事説明書をご覧ください	
	シャンプー台	シャンプー台の設置工事説明書をご覧ください	
水配管工事	一次給水配管工事	一次給水配管部材、保温材、必要に応じ てヒーター	
	ガス熱源機往配管工事	銅管Φ 22.2 保温材（厚さ 20mm 以上）	15m 以内
	ガス熱源機戻配管工事	銅管Φ 22.2 保温材（厚さ 20mm 以上）	15m 以内
	給水配管工事	銅管Φ 22.2 保温材（厚さ 20mm 以上） 必要に応じてヒーター	タンクユニット⇄シャンプー台 17.5m 以内
	給湯（給湯戻含む） 配管工事	銅管Φ 22.2 保温材（厚さ 20mm 以上）	タンクユニット⇄シャンプー台 17.5m 以内 タンクユニット⇒シャンプー台 ⇒タンクユニット 35m 以内
ガス配管工事	ガス熱源機	ガス配管部材	
排水配管工事	オーバーフロー	塩ビパイプ VP30（直管 2m・エルボ 2 個） 保温材（厚さ 10mm 以上）	
	その他排水	フレキ管 15A（3 本× 0.5m）	
電気工事	熱源機通信線 （タンクユニット⇄ ガス熱源機）	タンクユニットに付属（4m） ※タンクユニットとガス熱源機の距離 が離れている場合は別売品「熱源機 通 信 線（15m）RPTU-500-BG-4」 をご使用ください	
	リモコン線	別売品「2 芯ケーブル UC-25-□□」ま たは「2 芯ケーブル UC-27-□□」をご 使用ください	
	タンクユニット・ガス 熱源機電源線	タンクユニット・ガス熱源機に付属	
	アース	アース線 Φ 1.6、アース棒（市販品） 丸型端子（穴径Φ 4.3 以上）	
凍結（結露） 防止工事	一次給水配管 給水配管	凍結予防ヒーター 必要に応じて設置してください 推奨品：東京特殊電線 NF オートヒー タシリーズ （自己温度制御タイプ）	※樹脂管使用時は樹脂管の 材質に適した仕様のもの を使用してください
		NF オートヒータ専用節電スイッチ 上記ヒータのオプション品 必要に応じて設置してください	

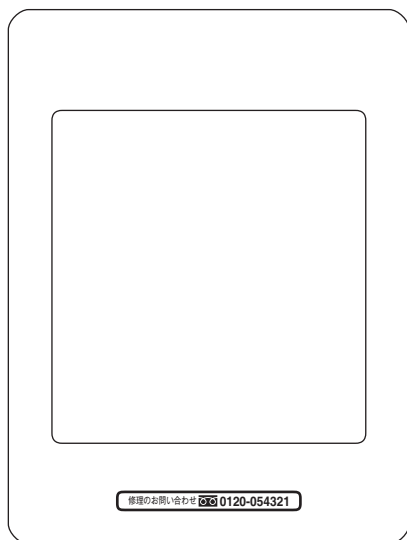
準備 6 付属部品

●梱包内には以下の付属品が入っています。設置工事の前にご確認ください。

●タンクユニット(同梱品)

名 称	形 状	個 数
缶体保護弁用排水チューブ		1
フリーダイヤルラベル		1
取扱説明書（保証書付）	A4 版	1
設置工事説明書	A4 版（本書）	1

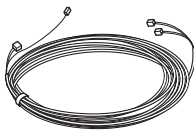
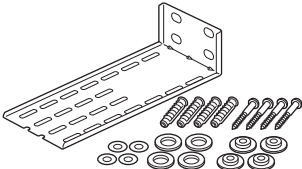
●タンクユニットに同梱しているフリーダイヤルラベルをリモコンの所定の位置に貼り付けてください。（下図参照）



準備 7 別売部品

●別売部品は機器の必要に応じ、別途ご注文ください。

※ガス熱源機の別売部品については、ガス熱源機の設置工事説明書をご覧ください。

名 称	型 式	備 考
外気温サーミスタ（15m）	RPTU-500-BG-3	タンク屋内設置時に必要 7 ページ参照 
熱源機通信線（15m）	RPTU-500-BG-4	タンクユニットとガス熱源機の距離が離れている場合に必要 7・10 ページ参照 ガス熱源機 2 台設置（タンクユニット型式 RPTU-500-BG2）の場合、2 本必要です。 設置工事の際、ガス熱源機を識別するための識別ラベルを同梱します。 ・ガス熱源機 1 台設置の場合 1 本必要です。 ・ガス熱源機 2 台設置の場合 2 本必要です。 別売品 RPTU-500-BG-4 は、設置方式に合わせた数量が必要となります。 ・ガス熱源機 1・2 と、タンクユニットの配線 1・2 には極性があります。必要に応じて付属の識別ラベルを貼り付けてください。 
転倒防止金具	RHO-TUEQ2	

設置 1

設置場所の確認

●機器は安全に正しく設置してください

- 設置場所をお決めになるときは、次の事項をよく読んでからお決めください。
- 設置場所をお決めになるときは、お客様とよくご相談ください。
- 近隣の家に騒音で迷惑にならない場所に設置してください。また、運転音や振動が気になる場所には設置しないでください。隣家・寝室などを配慮した据付け場所を選定してください。
- 車両・船舶への設置はしないでください。故障の原因となるだけでなく、思わぬ事故を招くおそれがあります。
- このシステムに給水する水は、必ず水道法に定められた、飲料水の水質基準に適合した水とし、温泉水や地下水や井戸水は接続しないでください。また、水道水であっても塩分・石灰分やその他の不純物が含まれていたり、水質が酸性の地域では使用しないでください。機器の故障の原因となります。
- タンクユニットは屋外・屋内設置兼用です。ガス熱源機は屋外設置専用です。
- ソーラーシステム(太陽熱温水器)には接続しないでください。高温水で機器故障の原因となります。
- テレビ・ラジオのアンテナより3m以上離してください。テレビ・ラジオに映像のみだれや雑音が生じることがあります。
- 下記のような条件ではシャワーや給湯栓のお湯の出が悪くなります。
 - ・タンクユニットと給湯栓の高低差が大きすぎる
 - ・手元ストップシャワー・マッサージシャワーなどのシャワーヘッドを使用した場合も、出湯量が少なくなることがあります。
- 本体を設置する床面が、防水・排水処理されているか確認してください。防水・排水処理が行われていないと、万が一の水漏れ発生時に大きな被害になるおそれがあります。
- 塩害地(耐塩害仕様は除く)、および潮風が直接当たる場所には設置しないでください。(1ページ参照)
- 温泉地などの硫化ガス成分が多い地域には設置しないでください。故障の原因になります。

●設置制約

〔タンクユニット ⇄ ガス熱源機 間〕

- 配管の最大延長長さは片道 15m です。15m 以内となるように設置してください。

〔タンクユニット ⇄ シャンプー台 間〕

- 給湯・給水配管の最大延長長さは 17.5m です。最も離れたシャンプー台までが 17.5m 以内となるように設置してください。なお、給湯配管はシャンプー台からタンクユニットに戻る給湯戻配管も設置します。給湯配管は給湯戻配管も含めた最大延長長さは 35m です。35m 以内となるように設置してください。

〔シャンプー台〕

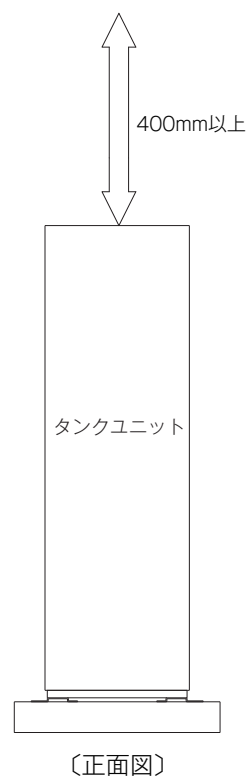
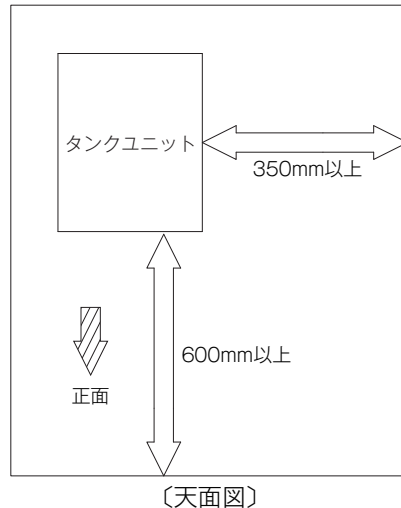
- シャンプー台は階上設置 4m 以内にしてください。階下設置はできません。

〔ガス熱源機〕

- ガス熱源機を 2 台設置する場合、ガス熱源機間の距離は 1m 以内で設置してください。
- その他のガス熱源機の設置制約についてはガス熱源機の設置工事説明書をご覧ください。

●保守・点検のためのスペース

- 階段・避難口近くなど、避難の支障になる場所への設置は避けてください。また、避難通路となるベランダに設置する場合は、避難通路幅として600mmを確保してください。
- 点検・修理ができるようタンクユニット正面は、十分なスペースを確保してください。
- 機器の点検・修理作業の際に危険を伴う場所(高所など)や機器の正面で作業ができない場所へは設置しないでください。



- ガス熱源機の保守・点検スペースについてはガス熱源機の設置工事説明書をご覧ください。

設置 2 基礎工事

基礎工事上の注意

- 地震や台風などで機器が転倒しないよう、必ず堅固で水平な基礎を設けてください。強度が不十分な場合、機器が転倒しガス漏れやケガの原因となります。

1 アンカーボルトの穴位置を決めます

- アンカーボルトの位置寸法は③基礎寸法をご覧ください。
下記以外の取り付け方法は災害時に機器の転倒を招く可能性がありますので行わないでください。

2 基礎工事の確認事項

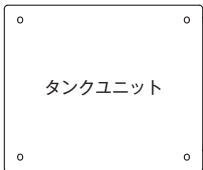
- 運転時の荷重に耐え、水平に維持できるようなコンクリート基礎を設けてください。なお、既存建物に設置する場合でも、同様の工事を前提に設置してください。

コンクリートの必要圧縮強度：18MPa

- 基礎は全面基礎(べた基礎)としてください。
- 主要構造躯体(床スラブ・はりなど)と切り離して設けられる基礎は必ず地階または1階で使用してください。
- 基礎が水平であることを水準器で確認してください。
- 設置先要求での耐震設置の場合は、「建築設備耐震設計・施工指針」(日本建築センター編)に準じて検討計算の上、施工してください。(「2013年4月の建築基準法改正」に準じて施工する必要があります)
- 地盤強度により、基礎厚さなどの変更が必要となる場合があります。その場合は設置場所の地盤強度に応じた基礎寸法で工事を行ってください。
- 基礎仕様を以下に示します。本製品は必ずこの仕様で施工してください。仕様を下回る施工では、地震により転倒する場合があります。

一般的な床スラブ上面およびあと施工金属拡張アンカーを使用した例

下表のように設置してください。

設置パターン			
アンカーボルト (あと施工金属 拡張アンカー)	1 階	M10 ねじ	埋め込み深さ 40mm 以上 引張耐力 3.6kN 以上
	中間階 上層階	M12 ねじ	埋め込み深さ 50mm 以上 引張耐力 5.8kN 以上
アンカーボルト個数		4 個	
基礎厚さ		120mm 以上 (床スラブ)	
アンカーボルト 突き出し高さ		20mm 以下	
表面仕上げ		水平仕上げ (水準器で確認のこと)、端面は面取り	
転倒防止金具 (別売品 型式： RHO-TUEQ2) での上部固定	1 階	不要	
	中間階 上層階	必要	
機器質量		乾燥重量約	66kg
		満水重量約	180kg

※アンカーボルト・ナット・ワッシャーは現地調達品です。

※めねじ形あと施工金属拡張アンカーでは引抜耐力不足です。絶対に使用しないでください。

※1階・中間階・上層階の定義は下表の通りです。

1 階	地階または 1 階
中間階	地階・1 階・下記上層階を除いた階
上層階	2 ～ 6 階建ての最上階 7 ～ 9 階建ての最上階とその直下階 10 ～ 12 階建ての最上階から数えて 3 以内の階 13 階建て以上は、最上階から数えて 4 以内の階

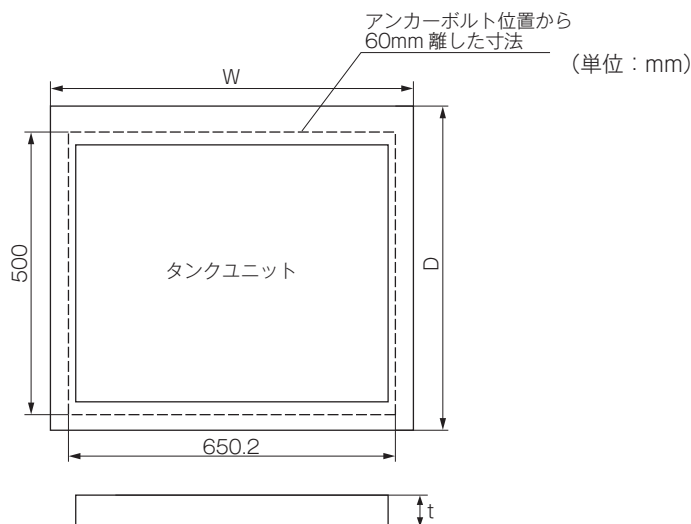
3 基礎寸法

1. 現場打ち基礎(べた基礎)を施工するとき

- 主要構造躯体(床スラブ・はりなど)と切り離して設けられる基礎は以下の寸法表よりも基礎を大きく施工してください。(厚さを同じとしたとき)
幅もしくは奥行きのどちらも寸法表より小さくはできません。
基礎の幅と奥行きの方向は下図の通り、機器の向きに合わせてください。
- 基礎のセンターに機器を設置してください。
- 基礎の端面とアンカーボルト位置は 60mm 離してください。
- 建築確認申請時の資料として、建築主より耐震強度計算書の提出を求められる場合があります。耐震強度計算書についてはリンナイホームページをご確認の上、設置した機器のものをダウンロードしてください。

(単位: mm)

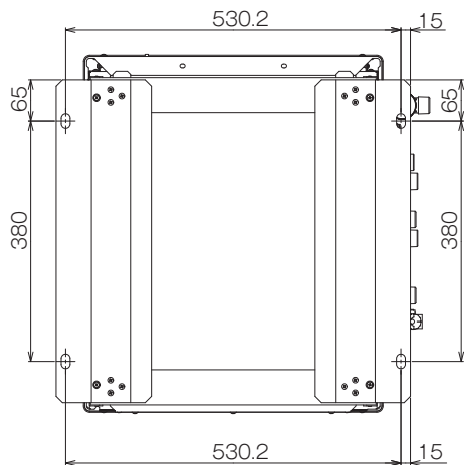
基礎寸法表		幅 (W)									厚み (t)
		700	750	800	850	900	950	1000	1050	1100 以上	
奥行き (D)	550	NG	NG	NG	260	230	200	180	160	150	
	600	210	180	160	150	150	150	150	150	150	
	650	150	150	150	150	150	150	150	150	150	
	700 以上	150	150	150	150	150	150	150	150	150	



2. アンカーボルトの寸法

排水配管・ガス配管・給湯配管・給水配管は設置状況に合わせて配置してください。(下記に例を示します)

脚パターン

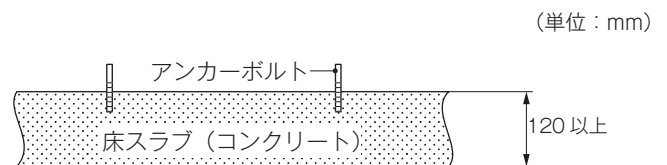
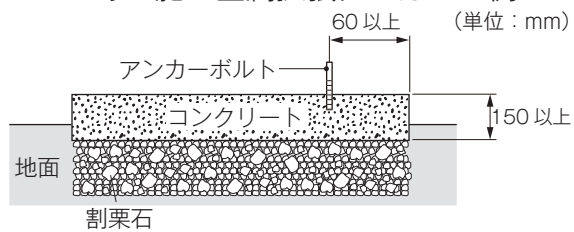


※梱包材(ダンボール)にアンカーボルトの位置が印刷されています。
梱包材を利用し、アンカーボルトの位置を決めることができます。

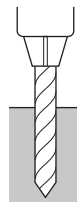
4 アンカーボルトの施工

- 機器は必ず指定サイズのアンカーボルト(基礎ボルト)で確実に固定してください。
- アンカーボルトの施工は、使用するアンカーボルトの取扱説明書に従い、アンカーボルトの仕様性能を発揮できるように行ってください。

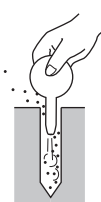
＜あと施工金属拡張アンカーの例＞



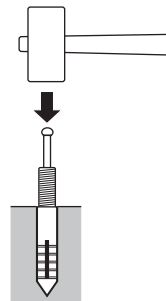
施工方式	呼び径	ドリル径
芯棒打ち込み式	M12	12.7
	M10	10.5



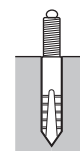
ドリルで穴をあけます。



フロアーなどで切粉を取り除きます。



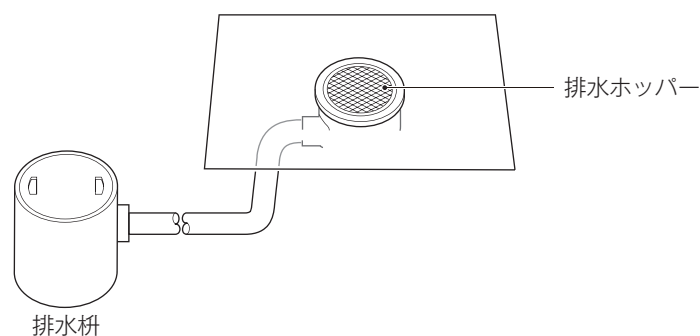
アンカーボルトを挿入して芯棒を打ち込みます。



芯棒の頭部が本体の頂部に接するまで打ち込みます。

5 排水ホッパーの施工

タンクユニットの排水処理をするため排水ホッパーが必要です。



設置 3 搬入

梱包材の扱いについて

- 梱包部材は開梱後に施工業者様にて適正に処分してください。

タンクユニット運搬方法

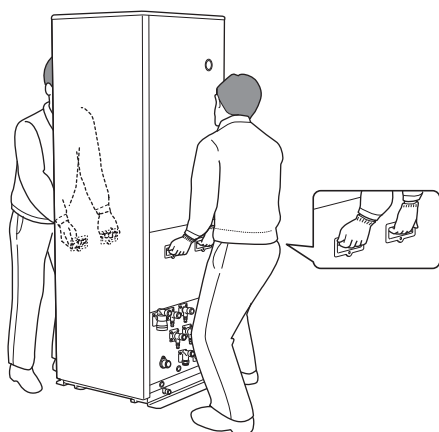
- タンクユニットの乾燥質量は約 66kgあります。
- 車両での運搬時は縦積みしてください。ただし短距離の地域配達時のみ横積みも可です。また荷台面が平坦であることを確認してください。
- タンクユニットを持ち上げる時または地面に下ろす時、筐体の一部に集中して荷重が掛からないようにしてください。
- 落下させたり、衝撃を加えたりしないでください。内部の部品が破損することがあります。
- 重心位置を十分に考慮し、特に転倒に注意してください。

タンクユニットの施工場所への搬入方法

- 原則 2 人以上でタンクユニットを運搬します。
- 必要に応じて搬入経路が破損、汚損しないよう合板などで保護したり、天井や壁を養生シートで保護してください。

タンクユニットを垂直にして運ぶ

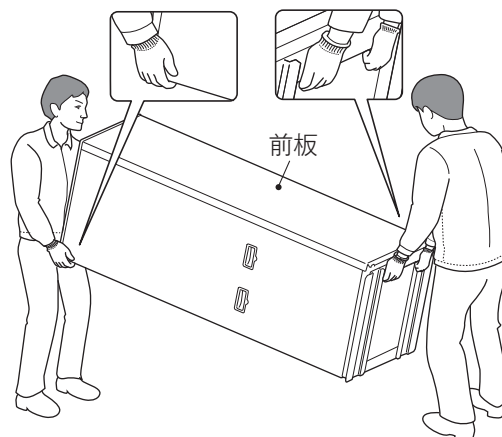
タンクユニット側面の取手に手をかけて運んでください。(下図は一例)



タンクユニットを水平にして運ぶ

タンクユニット上の角部と脚部に手をかけて運んでください。

その際は、前板側を上にしてください。

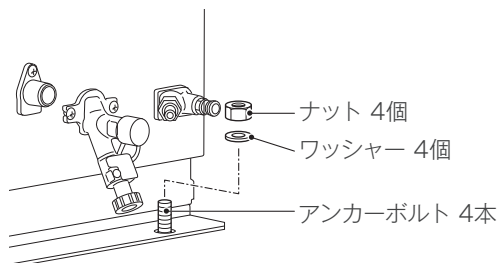


お願い

- 工事作業中は手袋を使用してください。金属端面によるけがや高温部接触によるやけどなどを防止します。ただし、ドリル作業では手袋を使用しないでください。ドリルに巻き込まれるおそれがあります。
- タンクユニットの運搬は落下防止のため、すべり止め付きの手袋を着用ください。
- 製品の上には乗らないでください。製品の変形や故障のおそれがあります。
- タンクユニットを仮置きする場合は縦置きとしてください。

1 設置します

- タンクユニットを基礎の所定の位置（アンカーボルトで固定する位置）に設置し、アンカーボルト（市販品）付属のワッシャーとナット（各 4 個）で固定します。



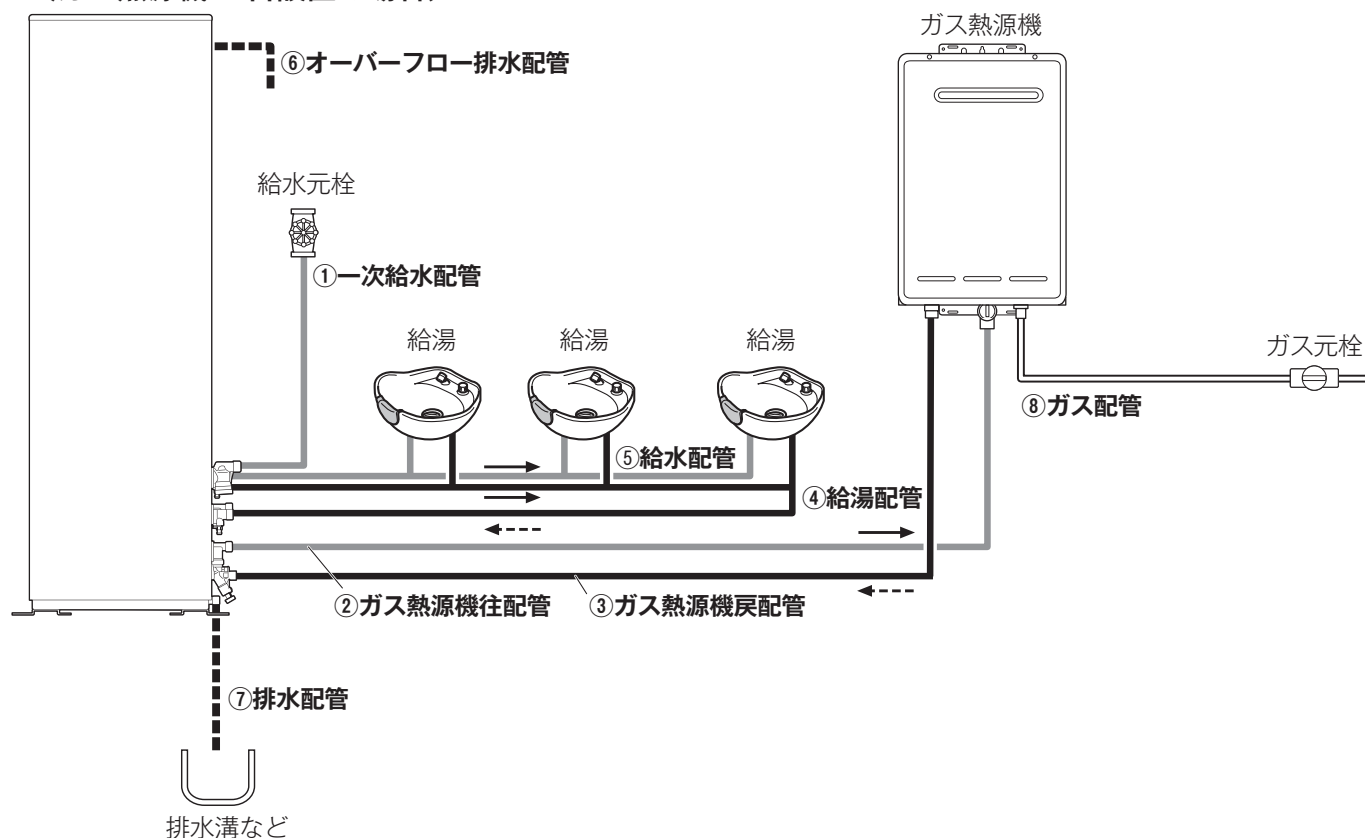
- 屋内設置する場合は、タンク外気温サーミスタを屋外に施工する作業が必要となります。（39 ページ参照）
- 機器が水平になるように水準器で確認してください。

配管 1

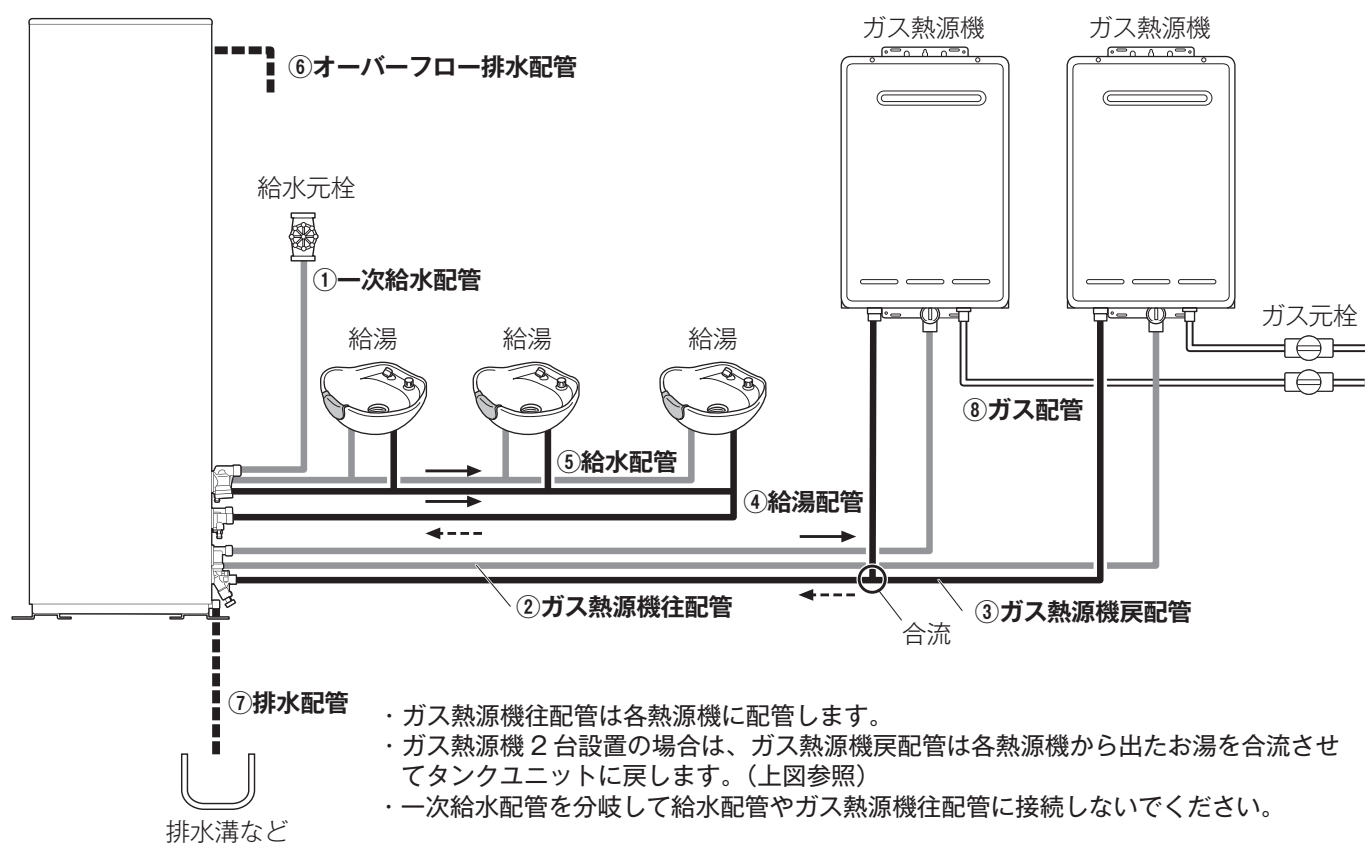
配管工事手順

概念図

- 配管工事は以下の 8 種類あります。
〔ガス熱源機 1 台設置の場合〕



- 〔ガス熱源機 2 台設置の場合〕



- ・ガス熱源機往配管は各熱源機に配管します。
- ・ガス熱源機 2 台設置の場合は、ガス熱源機戻配管は各熱源機から出たお湯を合流させてタンクユニットに戻します。(上図参照)
- ・一次給水配管を分岐して給水配管やガス熱源機往配管に接続しないでください。

- ガス配管については、ガス熱源機の設置工事説明書に沿って施工してください。
- 配管順序は基本的に①～⑧の順序で行いますが、状況に応じて順不同でも構いません。
- 給水・給湯配管部材は必ず関係水道局の承認または検査に合格したものを、ガス配管はガス事業者推奨品を使用してください。錆の発生する配管部材は、水漏れや詰まり、通水不足の原因となります。絶対に使用しないでください。
- 各配管は、管内のごみ異物を取り除いてから施工してください。
- 各配管施工時は管内にごみ・砂・ほこり・シールテープなどが入らないように施工してください。
- 配管工事は、機器側の接続部に過剰な力がかからないようにしてください。接続部に過剰な力がかかると、破壊や漏水・ガス漏れの原因となります。
- ガス配管・水配管と電線は接触しないように工事してください。
各配管は施工後、必ず漏れのないことを確認してください。
- 排水処理について
 - ・排水ホッパーをタンクユニット接続口側（正面に対して右側）の下側に設けておくと施工がしやすくなります。

配管 2

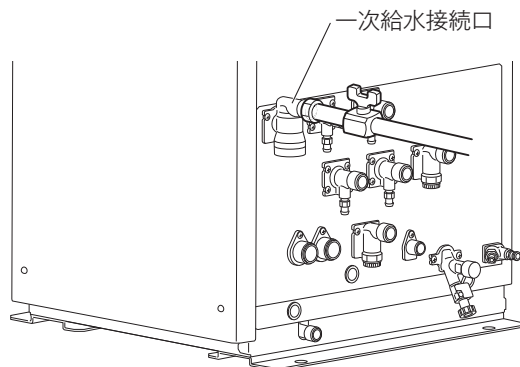
①一次給水配管工事

1 配管を準備します

- 施工業者様にてご用意する必要があります。
- 一次給水配管の接続口は R3/4 です。
- 理美容サロンは業務用として多量の水を必要としますので、十分な給水量（30L/min）が確保できる配管を選定してください。

2 ①一次給水配管を接続します

- 一次給水配管には給水元栓を必ず取り付けてください。
- 配管工事は給水事業者の指定工事店に依頼し、給水事業者の規定に従ってください。
- 水源に市水道を使用する場合は、各市町村水道局の条例に基づき施工してください。
- このシステムに給水する水は必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水とし、温泉水や地下水や井戸水は接続しないでください。また、水道水であっても塩分・石灰分やその他の不純物が含まれている場合や水質が酸性の地域では使用しないでください。機器の故障の原因となります。
- 給水配管とタンクユニットを接続する前に、給水元栓を開けて、給水配管内のごみ・砂を流し出してください。そして接続後、通水テストを必ず行い、給水元栓を閉めてから給水接続口内部のストレーナを取り出し掃除してください。
- この機器をお客様に快適に使っていただくための希望給水圧は 100 ～ 500kPa（約 1.0 ～ 5 kgf/cm²）です。
- 一次給水接続口に一次給水配管を接続してください。



- 一次給水配管を分岐して給水配管やガス熱源機往配管（21 ページ参照）に接続しないでください。

お願い

- 給水電磁弁がロックされ給水不良を起こすことを予防するために、一次給水圧が高い（500kPa 以上）場合や、一次給水止水栓に逆止弁が内蔵されている場合は、必ず減圧弁（300kPa）を取り付けてください。

■性能低下や機器の故障を防止するため、使用水は以下のことにご注意ください。

- 砂や濁り・ごみが含まれる場合は、必ず濾過器を設置してください。
- 鉄分が 0.3ppm を超える場合は、必ず除鉄器を設置してください。
- 硬度成分が 80ppm を超える場合は、必ず飲水機設置など、水処理対策を行ってください。

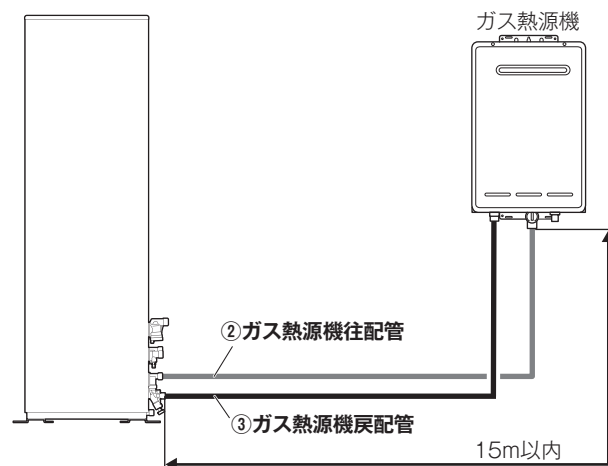
- 水漏れ確認後、配管に断熱材を施工してください。
- 凍結のおそれがある場合は、給水配管に配管ヒーターを設置してください。

配管 3

②③ガス熱源機往・戻配管工事

1 配管を準備します

- 施工業者様にてご用意する必要があります。
 - ガス熱源機往・戻配管の接続口はR3/4です。
 - 配管には銅管(Φ22.2)を使用してください。
 - 配管長さは必ず片道15m以内および3曲がり以内にしてください。
- ※配管が下にたるまないように施工してください。



2 ②ガス熱源機往配管を接続します

〈ガス熱源機 1 台の場合〉

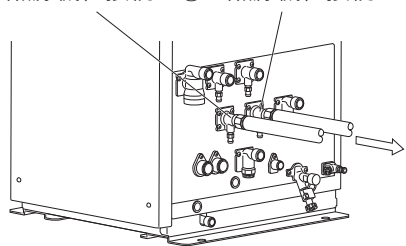
- タンクユニットの熱源機往接続口①とガス熱源機の給水接続口を銅管(Φ 22.2)で接続します。

〈ガス熱源機 2 台の場合〉

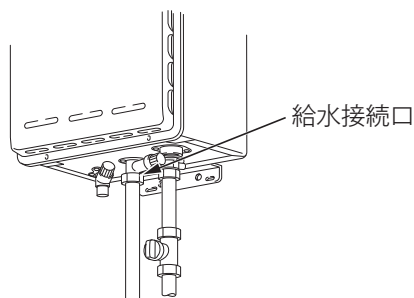
- タンクユニットの熱源機往接続口①とガス熱源機 1 の給水接続口を銅管(Φ 22.2)で接続します。
- タンクユニットの熱源機往接続口②とガス熱源機 2 の給水接続口を銅管(Φ 22.2)で接続します。
- ガス熱源機 1・2 は任意に決めてください。ただし、信号線の接続時にどちらが 1 でどちらが 2 かわかる ようにしておいてください。
- 水漏れ確認後配管には断熱材(厚み 20mm)を施工してください。

〔タンクユニット〕

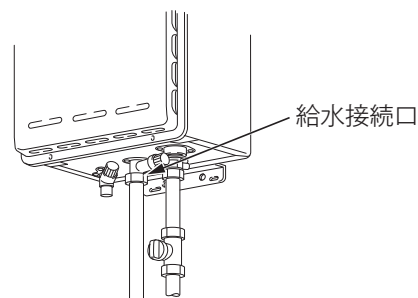
熱源機往接続口① 熱源機往接続口②



〔ガス熱源機 1〕



〔ガス熱源機 2〕



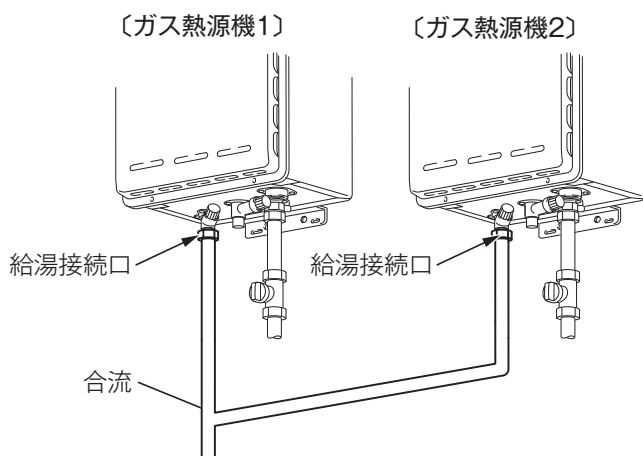
③③ガス熱源機戻配管を接続します

〈ガス熱源機 1 台の場合〉

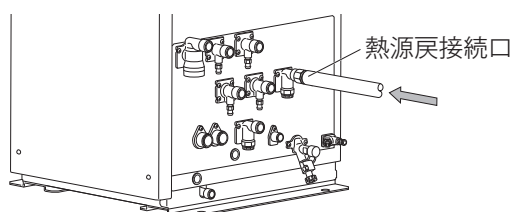
- ガス熱源機の給湯接続口とタンクユニットの熱源戻接続を銅管（Φ 22.2）で接続します。

〈ガス熱源機 2 台の場合〉

- ガス熱源機 1 の給湯接続口とガス熱源機 2 の給湯接続口を銅管（Φ 22.2）で連結させ 1 経路にします。
- 1 経路にした配管をタンクユニットの熱源戻接続口に接続します。



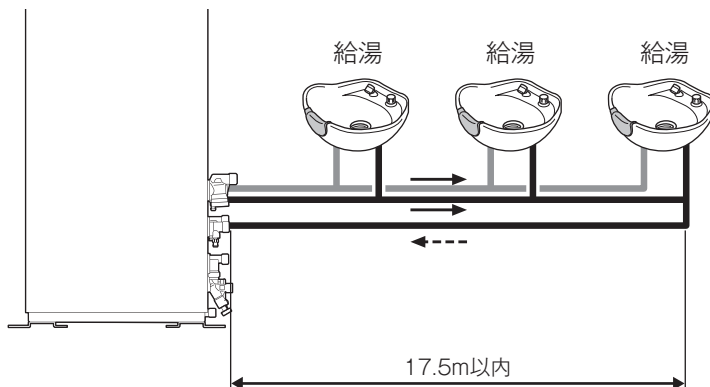
〔タンクユニット〕



- 水漏れ確認後配管には断熱材（厚み 20mm）を施工してください。

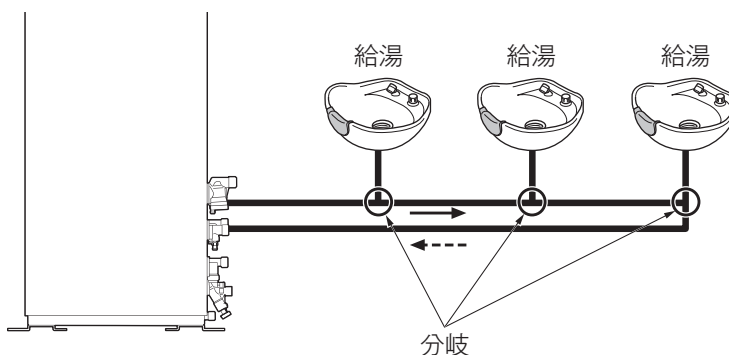
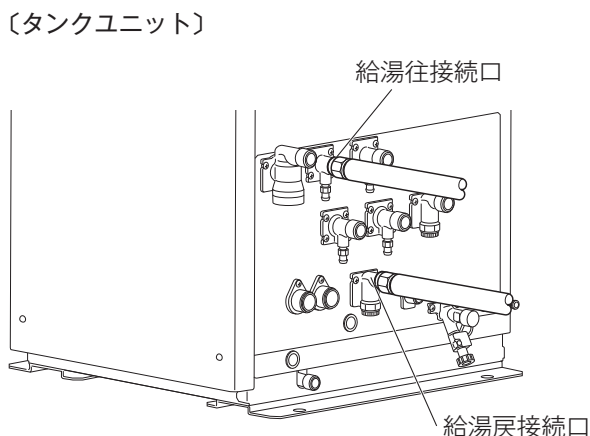
1 配管を準備します

- 施工業者様にてご用意する必要があります。
- 給水・給湯(給湯戻含む)配管の接続口はR3/4です。
- 配管には銅管(φ22.2)を使用してください。
- 給湯配管・給湯戻配管は、厚み：Lタイプ以上の銅管を使用してください。
※孔食の発生しやすい地域にあっては、耐孔食用の銅管を採用するなど、対策を施してください。
- 給水・給湯(給湯戻含む)配管には軟質被覆銅管による施工は絶対に避けてください。
- 給水・給湯配管長さ(タンクユニット⇒シャンプー台)は最も遠いシャンプー台までの長さが17.5m以内となるようにしてください。
- 給湯配管はループしています。給湯戻配管も含めて(タンクユニット⇒シャンプー台⇒タンクユニット)総延長35m以内としてください。
- タンクユニットを屋内設置する場合には水はり用の水抜きバルブを用意してください。(R3/4・R1/2)
- 空気溜りの原因となる逆U字配管(鳥居配管)はできる限り避けてください。避けられない場合は自動エア抜き弁を最頂部に取り付けるなどの対策を施してください。



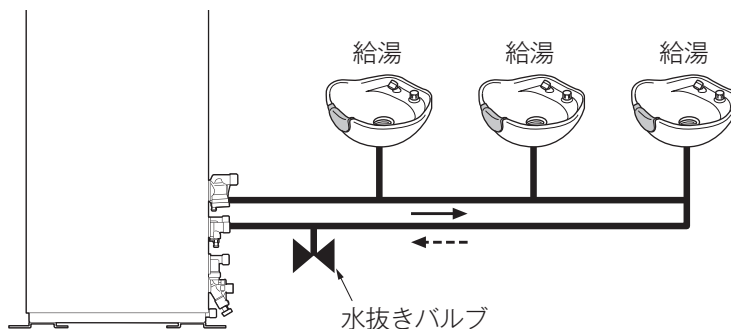
2 ④給湯配管を接続します

- タンクユニットの給湯往接続口に給湯配管を接続します。(タンクユニット)
- 給湯配管をシャンプー台まで導き、それぞれのシャンプー台ごとに分岐させシャンプー台の湯側に接続します。
- シャンプー台への接続時はシャンプー台の取扱説明書をご確認ください。
- 給湯配管は、その後タンクへループさせ給湯戻接続口に接続します。(シャンプー台からタンクへループさせる給湯配管を給湯戻配管と呼びます)
- 水漏れ確認後配管には断熱材(厚み20mm)を施工してください。



〔タンクが屋内設置の場合〕

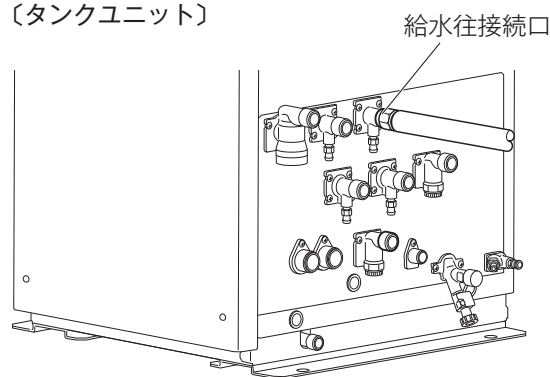
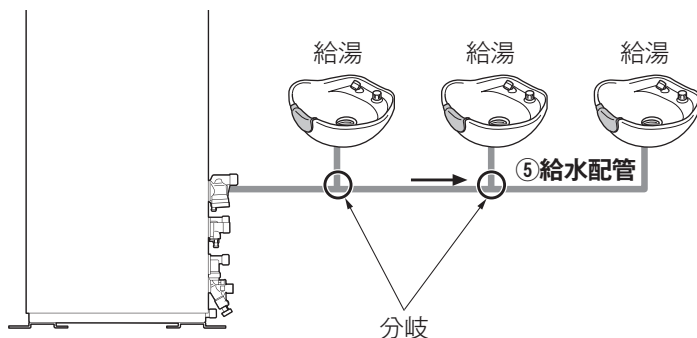
- 給湯戻配管から分岐させ、水はり用の水抜きバルブを取り付けてください。なおバルブはタンクユニット近くに取り付けてください。



③⑤給水配管を接続します

- タンクユニットの給水往接続口に給水配管を接続します。
- 給水配管をシャンプー台まで導き、それぞれのシャンプー台ごとに分岐させシャンプー台の水側に接続します。
- シャンプー台への接続時はシャンプー台の取扱説明書をご確認ください。
- 給水配管はタンクヘループさせません。
- 水漏れ確認後配管には断熱材（厚み 20mm）を施工してください。

〔タンクユニット〕



④その他

- 給水・給湯（給湯戻含む）配管の継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管は避けてください。
- 配管途中に空気だまりのできるような配管は避けてください。
- シャンプー台にはサーモスタット式混合水栓を選定してください。
- タンクユニットの給水・給湯はシャンプー台およびシンク類でのみ使用してください。**飲用には絶対使用しないでください。**
- シンク類に給湯する場合はシャンプー台よりも後方（給湯戻配管）で分岐接続してください。
- 洗濯機・トイレへの給水はタンクユニットの一次側給水から接続してください。
- 配管はできるだけ機器と同じ高さで行ってください。階上に配管する場合には余分に給水圧力が必要になります。（1mにつき10kPa（約0.1kgf/cm²）ずつ余分に必要になります）
- できるだけ短距離に配管してください。給湯配管が長くなるとそれだけお湯の出始めが遅くなり、電気やガスの無駄になるだけでなく使用上不便を感じます。
- 2か所以上で同時にお湯を使用するときには、給湯配管の方法、給湯栓の開け具合によってそれぞれの給湯栓からのお湯の量が異なることがあります。特に機器から遠い場所、高い位置の給湯栓ではお湯が出ない場合もありますので、十分にご検討のうえ設置してください。
- 水漏れ確認後、配管には厚さ20mmの断熱保温を行ってください。
- 給水配管には凍結防止機能がありません。凍結のおそれがある場合は、配管ヒーターを設置してください。

配管 5

⑥ オーバーフロー排水配管工事

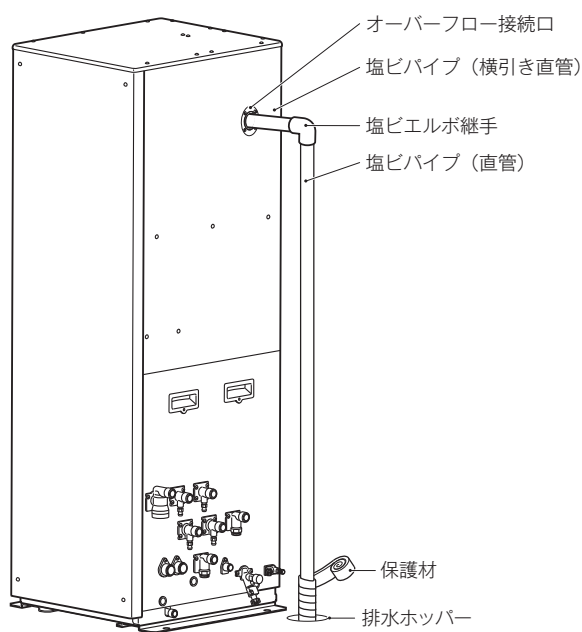
●配管工事は指定排水設備事業者により、下水道法に基づいて施工してください。

1 配管を準備します

- 施工業者様にてご用意する必要があります。
- オーバーフロー接続口は VP30（メス）です。
- 配管には塩ビパイプ（VP30）を使用してください。
- 配管の曲げには塩ビエルボ（VP30）を使用してください。

2 オーバーフロー排水配管をする

- オーバーフロー接続口から塩ビパイプ（VP30）および塩ビエルボで配管し、排水ホッパーへ導いてください。
- 配管の閉塞を防ぐため、可能な限り横引き長さは短くしてください。
- 配管の閉塞を防ぐため、可能な限り短い配管長で施工してください。
- 水漏れ確認後配管には断熱材（厚み 10mm）を施工してください。（結露対策）
- 塩ビパイプを下した箇所に排水ホッパーが設置されると施工しやすくなります。



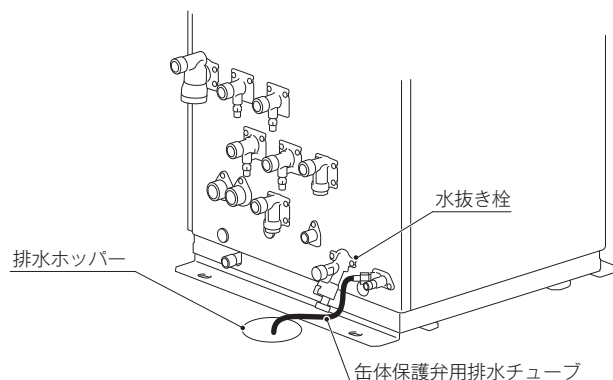
配管 6

⑦ 排水配管工事

- 配管工事は指定排水設備事業者により、下水道法に基づいて施工してください。
- 本システムではオーバーフロー排水の他に 4 系統の排水があります。
（水抜き栓・排水栓・排水口①・排水口②）（次ページ参照）

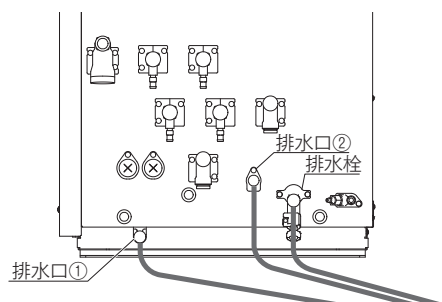
1 水抜き栓排水配管をする

- 缶体保護弁用排水チューブ（付属品）を水抜き栓に取り付けます。
- 缶体保護弁用排水チューブは適当な長さにカットして、排水ホッパーに導いてください。



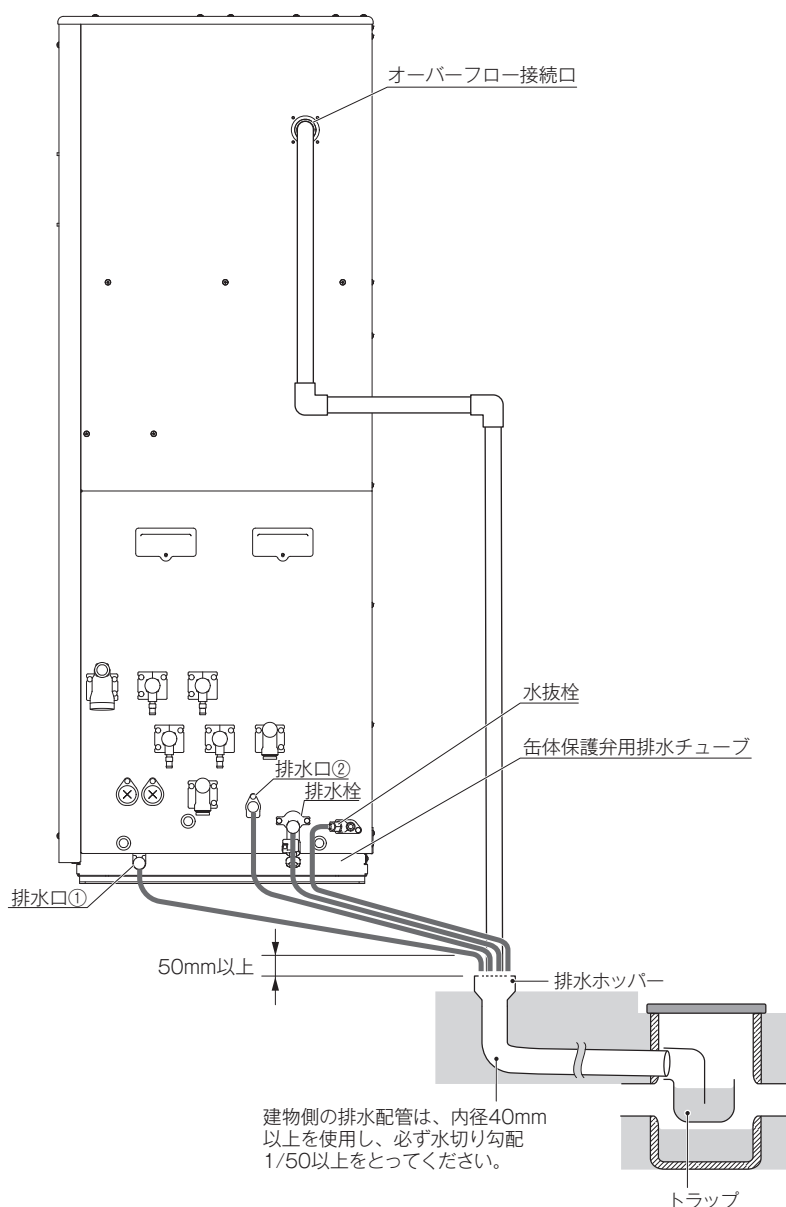
2 排水栓・排水口①・排水口②の排水配管をする

- 排水栓・排水口①・排水口②ともにフレキ管 15A (G1 / 2) で配管し、排水ホッパーへ導いてください。
- 配管の閉塞を防ぐため横引き配管はしないでください。
- 配管の閉塞を防ぐためできるかぎり短い配管をしてください。



3 排水ホッパー

- 排水経路には、必ず 50mm 以上の吐出空間を設けて間接排水してください。またごみ詰まりのないように注意してください。
- 排水配管は污水・雑排水の系統へ間接排水とし、臭気対策および下水ガスによる機器や配管の腐食防止として必ずトラップを設けてください。



⚠ 注意

- 給水タンクに給水されるたびにオーバーフロー接続口から排水します。
- ガス熱源機の運転中に逃し弁から膨張水を排水します。
- 逃し弁故障時に缶体保護弁用排水チューブから膨張水を排水します。
- 器具内で水が漏れたときに排水口①から排水します。

配管 7

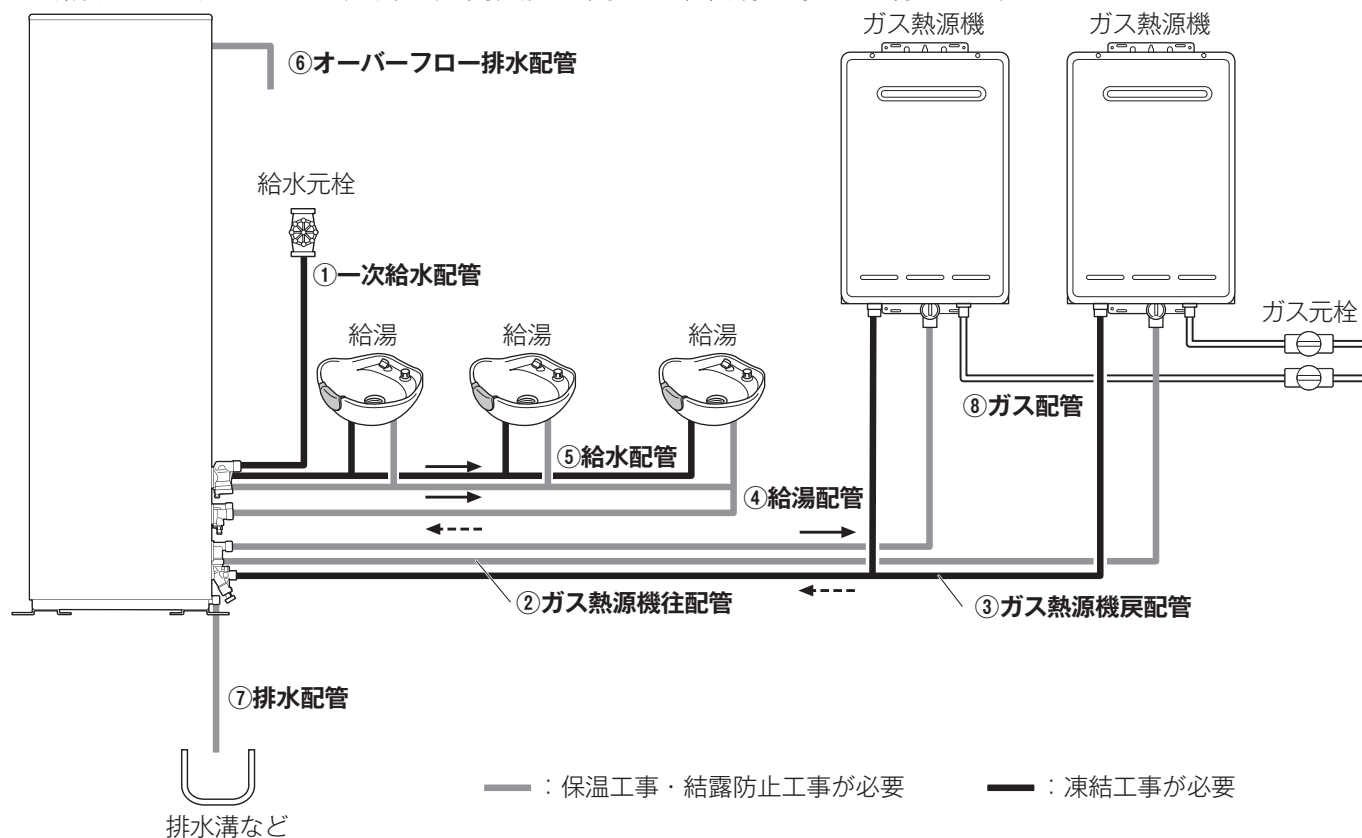
⑧ガス配管工事

- ガス熱源機の設置工事説明書に従って施工してください。

配管 8

配管断熱

- 水漏れ確認後、図の①～⑥の配管は必ず断熱を行ってください。
- 断熱はタンクユニット屋外・屋内設置に関わらず同様の施工を行ってください。



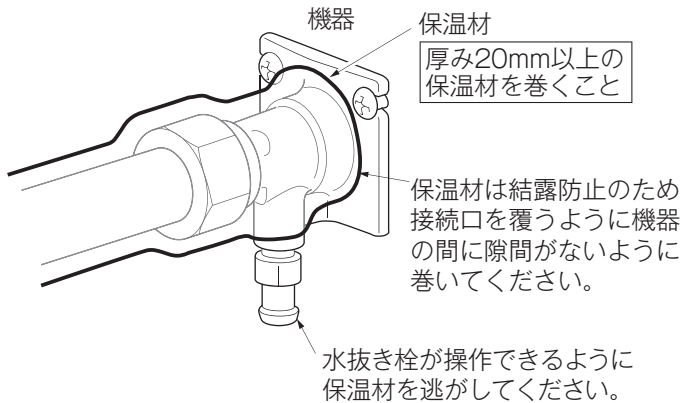
●断熱仕様一覧

工事名	工事部位	断熱仕様	ヒーター
①一次給水配管	給水元栓 ⇄ タンクユニット	任意	任意
②ガス熱源機往配管	タンクユニット ⇄ ガス熱源機	20mm	不要
③ガス熱源機戻配管	ガス熱源機 ⇄ タンクユニット	20mm	不要
④給湯配管	タンクユニット ⇄ シャンプー台	20mm	不要
	シャンプー台 ⇄ タンクユニット	20mm	不要
⑤給水配管	タンクユニット ⇄ シャンプー台	20mm	任意
⑥オーバーフロー排水配管	タンクユニット ⇄ 排水ホッパー	10mm	不要
⑦排水配管	タンクユニット ⇄ 排水ホッパー	不要	不要

1 配管断熱を行ってください

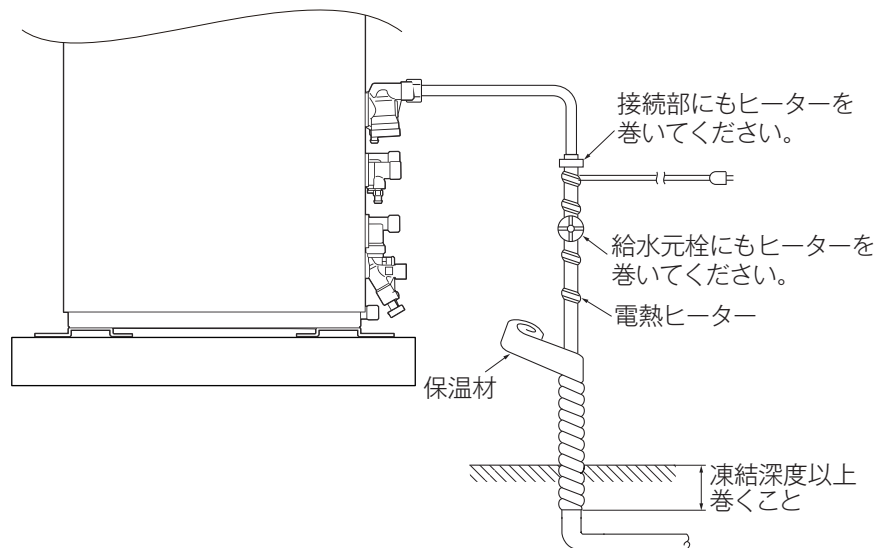
〈共通〉

- ①～⑥の配管に指定した厚みで配管断熱を実施してください。配管は根元まで完全に断熱してください。
- 特に給水配管は凍結しやすいので止水栓を含め確実に保温材を巻いてください。
- 保温工事をした部分は、保温材がぬれないようテープなどで必ず防水処置をしてください。
- 配管内の水抜きが容易にできるよう処理してください。水抜き栓を保温材で包み込まないでください。



2 ヒーター

- ①⑤の配管は必要に応じてヒーターをとりつけてください。
- その他の配管（②③④⑥⑦）にはヒーターを取り付けしないでください。
※②③④は器具で凍結防止を実施します。
- 凍結防止ヒーターは配管の下側もしくは配管に巻きつけて取り付けてください。
※配管に樹脂管を使用している場合は、樹脂管の材質に適した仕様の凍結防止ヒーターを使用してください。
- 外気温を検知するタイプでは温度の誤検出の可能性がありますので、凍結防止ヒーターは、配管の温度を直接検知するタイプのものを使用してください。
（推奨品：東京特殊電線NFオートヒーターシリーズ＜自己温度制御型＞ 10ページ参照）
- 凍結防止ヒーターは複数使用しますので、必要に応じてコンセントを設けてください。

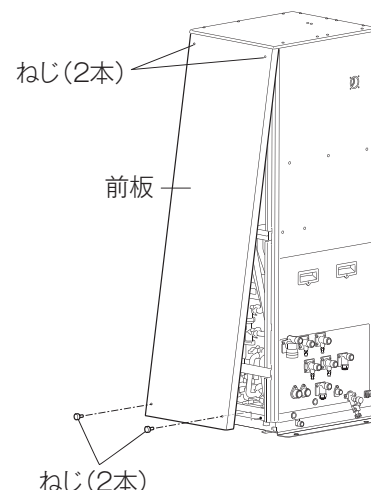


配線 1 電気工事（信号線）

- 信号線には熱源機通信線とリモコン線があります。

名 称	内 容	備 考
熱源機通信線 (5 芯線、アース線)	タンクユニットとガス熱源機との通信を行います。 ガス熱源機 2 台設置であれば 2 線必要です。	タンクユニットに付属 (4m) タンクユニットとガス熱源機の距離が離れている場合は別売品「熱源機通信線 (15m) RPTU-500-BG-4」をご使用ください。
リモコン線	タンクユニットとリモコンとの通信を行います。	

- RPTU-500-BG1 に接続できるガス熱源機は 1 台です。熱源機通信線は 1 本接続します。
- RPTU-500-BG2 に接続できるガス熱源機は 2 台です。熱源機通信線は 2 本接続します。
- ガス熱源機 1・2 と、タンクユニットの配線 1・2 には極性があります。熱源機通信線を正しく接続しないとガス熱源機が動かない（燃烧しない）などの不具合の原因となります。
- 電気工事はタンクユニットおよびガス熱源機の前板を外した状態で作業してください。



1 熱源機通信線を接続する

〈タンクユニット側〉

別売品「熱源機通信線 RPTU-500-BG-4」をご使用の場合のみ設置工事してください。タンクユニットに付属している 4m の熱源機通信線と取り替えてください。

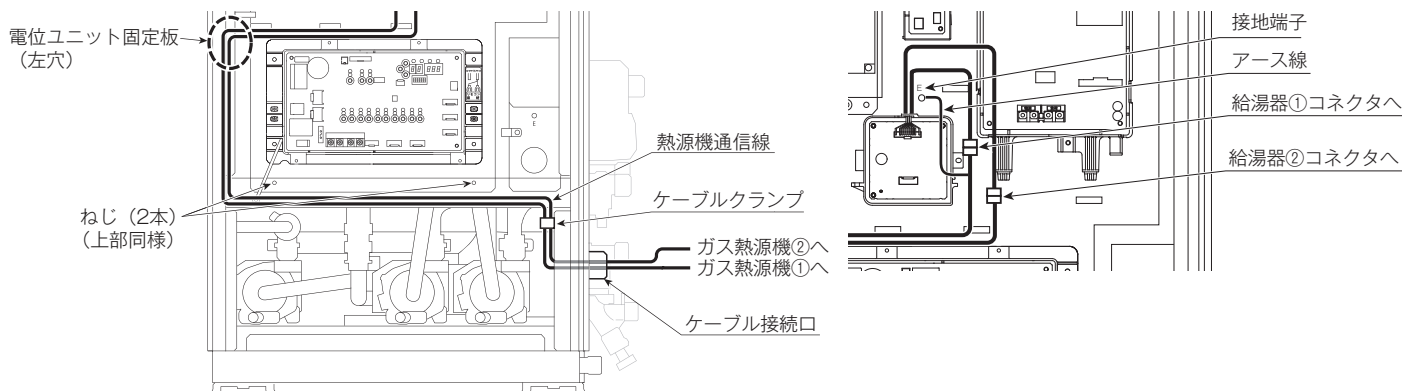
- 熱源機通信線はタンクユニット右側面のケーブル接続口から通します。つぎに電子ユニット固定板（左穴）を通した後、コネクタに差し込んでください。（ガス熱源機 2 台設置の場合は熱源機通信線 2 本を引込んでください）

※電子ユニット固定板はねじ 4 本をはずすことで開くことができます。

- ガス熱源機 1 台設置（タンクユニット型式 RPTU-500-BG1）の場合、タンクユニット基板からでている給湯器①コネクタに熱源機通信線を差し込んでください。（給湯器②コネクタもありますが何も差し込みません）
- ガス熱源機 2 台設置（タンクユニット型式 RPTU-500-BG2）の場合、給湯器①コネクタにガス熱源機 1 に導く熱源機通信線を差し込んでください。給湯器②コネクタにガス熱源機 2 に導く熱源機通信線を差し込んでください。

（ガス熱源機 1 とは「配管 3 ガス熱源機往配管工事」で熱源機往接続口①に接続された熱源機です。ガス熱源機 2 は熱源機往接続口②に接続された熱源機です。）

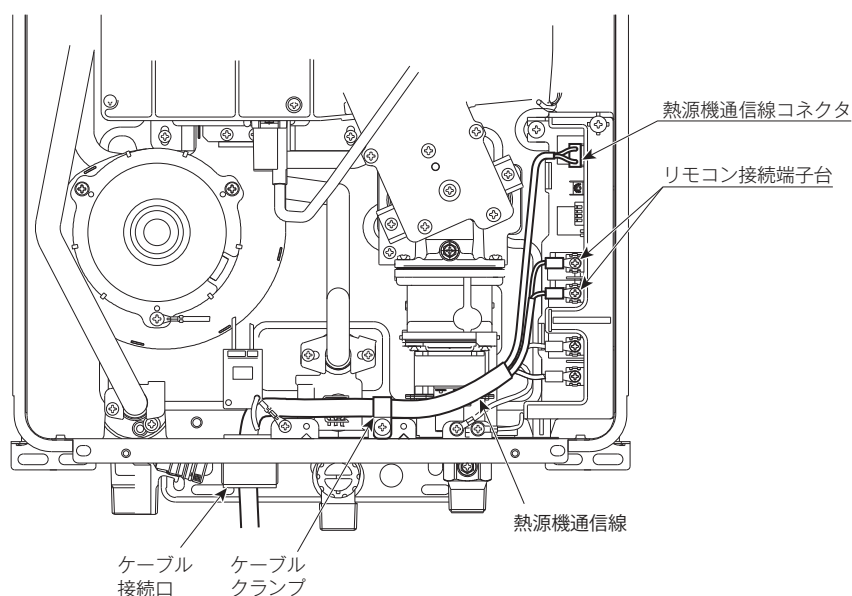
- 別売品 RPTU-500-BG-4 のアース線を本体内の接地端子（「E」の文字で表示）に接続してください。



〔タンクユニット内の熱源機通信線の配線〕

〈ガス熱源機側〉

- 熱源機通信線をケーブル接続口から熱源機内に引き込んでください。
- 熱源機通信線はケーブルクランプで固定してください。
- 熱源機通信線のコネクタを熱源機の電装ユニット（熱源機通信線用のコネクタ）に確実に差し込んでください。
- 熱源機通信線の 2 芯ケーブルをガス熱源機電装ユニットのリモコン接続端子台に接続してください。（極性はありません）
- 熱源機が 2 台設置の場合には上記作業を 2 台とも実施してください。



〔ガス熱源機電装ユニットの配線〕

⚠ 注意

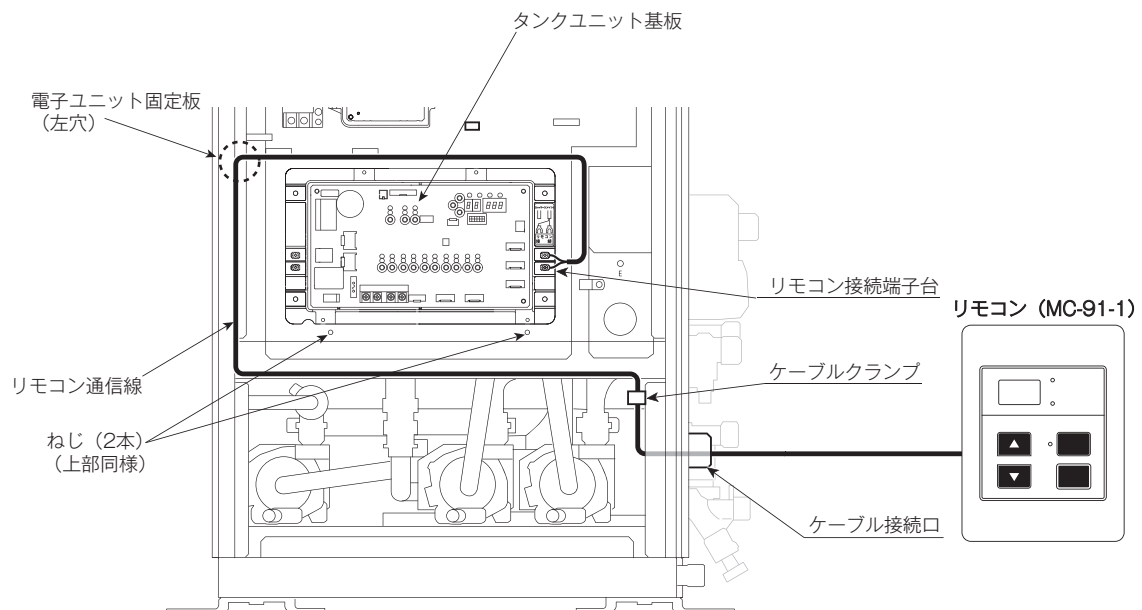
タンクユニットとガス熱源機の配線が間違っているとガス熱源機は燃焼しません。試運転時にガス熱源機 1・ガス熱源機 2 がそれぞれ正常に動作することを確認してください。（53 ページ参照）

2 リモコン通信線を接続する

- この機器には必ず専用のリモコン（MC-91-1）を接続してください。
- リモコンの取り付けはリモコンに同梱されている「リモコン設置工事説明書」を参照してください。
- リモコン通信線はタンクユニットの基板に接続します。
- リモコン通信線には別売品「2 芯ケーブル UC-25- □□」または「2 芯ケーブル UC-27- □□」をご使用ください。

〈タンクユニットとの接続〉

- リモコン通信線をタンクユニット右側面のケーブル接続口から通します。つぎに電子ユニット固定板(左穴)を通した後、タンクユニット基板のリモコン接続端子台にビス止めしてください。
※電子ユニット固定板はねじ4本をはずすことで開くことができます。
- リモコン通信線をケーブルクランプで固定してください。



〈リモコンとの接続〉

- リモコン通信線の取り付けはリモコンに同梱されている「リモコン設置工事説明書」を参照してください。

配線 2 電気工事（電源）

■電源用コンセントについて

- 機器は設置する場所に電源コンセントがない場合、あっても適切でない場合には、新設あるいは移設・交換などが必要です。
- 機器から 1.5m 以内に電源コンセントが必要です。（電源ケーブルの長さは約 1.8m です）
- 機器の電気関係の仕様（電圧・周波数）を確認してください。
- タンクユニットを屋外設置する場合には防雨型屋外コンセントを使用してください。

■接地工事について

- 電気設備技術基準による D 種接地工事（アース工事）が必要です。接地工事が不完全な場合は感電の原因になることがあります。
- アース棒などを使用する接地工事は、電気工事士が行ってください。
- アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線には接続しないでください。
- 電気設備技術基準により、漏電したとき自動的に電路をしゃ断する装置（漏電しゃ断器）を電源側に設けてください。
- 機器右側側面にアースの文字で接地端子部を表示してあります。
※アース線の接続は公称導体断面積 2mm^2 以上の被覆銅線を使用してください。（38 ページ参照）



〈コンセントから電源をとる場合〉

【工事手順】

- 機器底面の「アース」の文字で表示されたねじにアース線を接続してください。
- コンセントの接地端子にアース線を接続してください。
- 電源プラグをコンセントに差し込んでください。

〈電源ケーブル工事をする場合〉

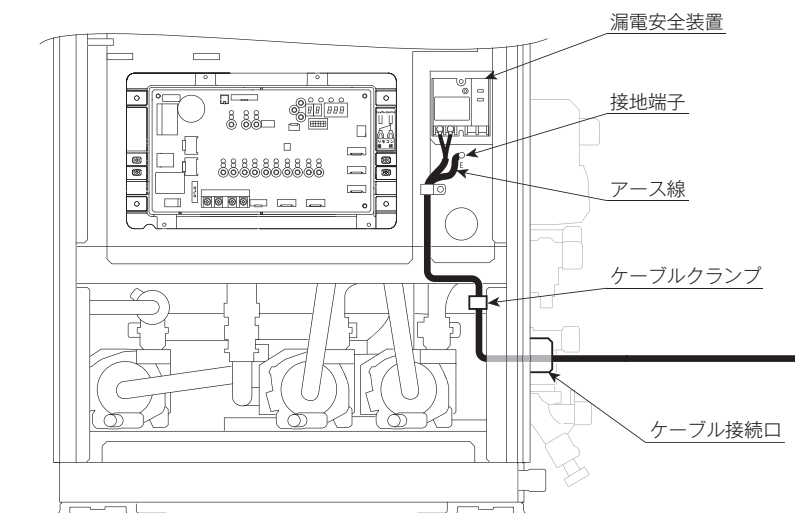
- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、指定工事業者が行ってください。

【工事手順】

- フロントカバーを取りはずしてください。（ねじ4本）（32 ページ参照）
- 機器の電源ケーブルを取りはずしてください。
- 機器のケーブル接続口より電源ケーブルを引き込んでください。
※電源ケーブルは下記を使用してください。

100V 電源ケーブル	ビニールキャブ タイヤケーブル VCT 公称導体断面積 $2\text{mm}^2 \times 3$ 芯
-------------	---

- 電源ケーブルの黒・白線を機器電源用として、機器本体内の漏電安全装置の電源側（下図参考）に、他の色（緑または赤）をアース用として、本体内の接地端子（「E」の文字で表示）に、それぞれ接続してください。



- 電源ケーブルをケーブルクランプ（機器に取り付けられています）で固定してください。
- 分電盤の専用スイッチを「切」にしてください。
※分電盤は専用回路としてください。
- 分電盤の電源用端子に電源ケーブルの白線および黒線を、アース端子に他の色（緑または赤）の線を接続してください。
- 分電盤の専用スイッチを「入」にしてください。
- 機器本体内の漏電安全装置の動作確認をしてください。
- フロントカバーをもと通りに取り付けてください。
※電源投入時、しばらく部品の動作音がする場合がありますが異常ではありません。

お願い

- タンクユニット電源線が余る場合は、必ず機器外で適切に処理をし、機器の中へは絶対押し込まないでください。
- 通電は必ずシステムの試運転の際に行ってください。（詳細は「試運転」（42ページ参照）の項目をご覧ください）

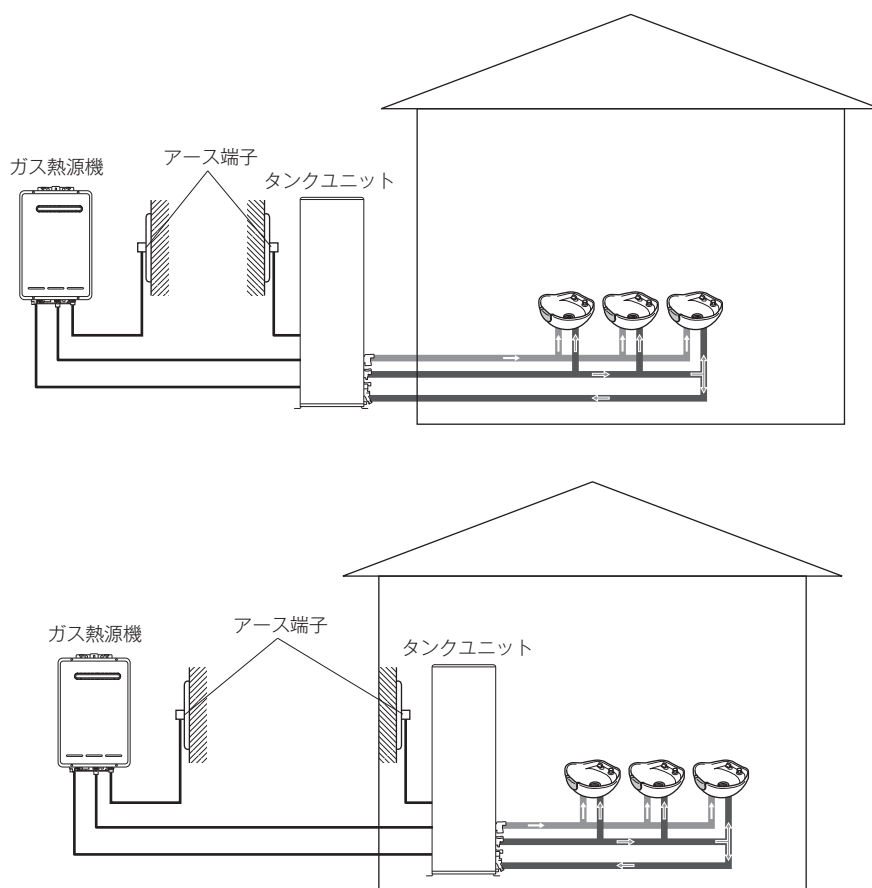
配線 3 電気工事（アース）

- 保護アース（接地）工事は、万が一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、電気工事士による D 種接地工事を行ってください。接地工事が不完全な場合は、感電の原因になることがあります。
- アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線には接続しないでください。他の機器との接地の共用はできません。
- 電気設備技術基準により、漏電したとき自動的に電路をしゃ断する装置（漏電しゃ断器）を電源側に設けてください。
- ガス熱源機のアース工事については、ガス熱源機の設置工事説明書をご覧ください。

1 アース工事をする

1. アース工事の概略

- タンクユニット、ガス熱源機は**それぞれアース接続**をしてください。
- コンセントのアース工事がされていることを確認してください。



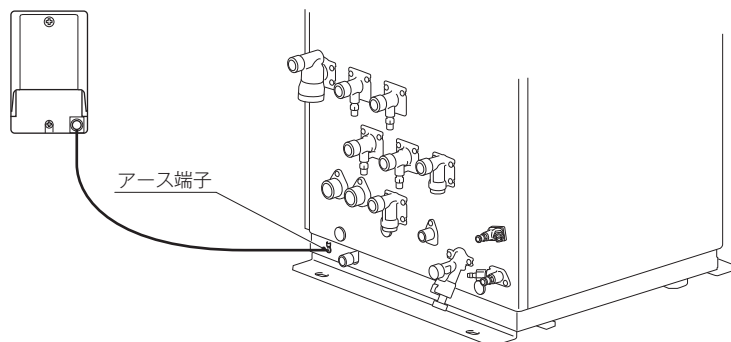
2. アース線をタンクユニット底板のアース端子へ接続します。

- アース線は市販品を使用してください。
- 丸型端子（市販品：φ 4.3 以上）を圧着して接続してください。丸型端子はカシメ部分に樹脂スリーブのないものを使用してください。

①機器右側面の「アース」の文字で表示されたねじにアース線を接続してください。

②コンセントのアース端子にアース線を接続する。

※アース線の取り付けは漏電ブレーカーをコンセントから抜いた状態で行ってください。



⚠ 警告

- タンクユニットのアース工事(D種接地工事)を行う。
- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、電気工事士が行う。
工事に不備があると、故障や漏電のとき感電するおそれがあります。

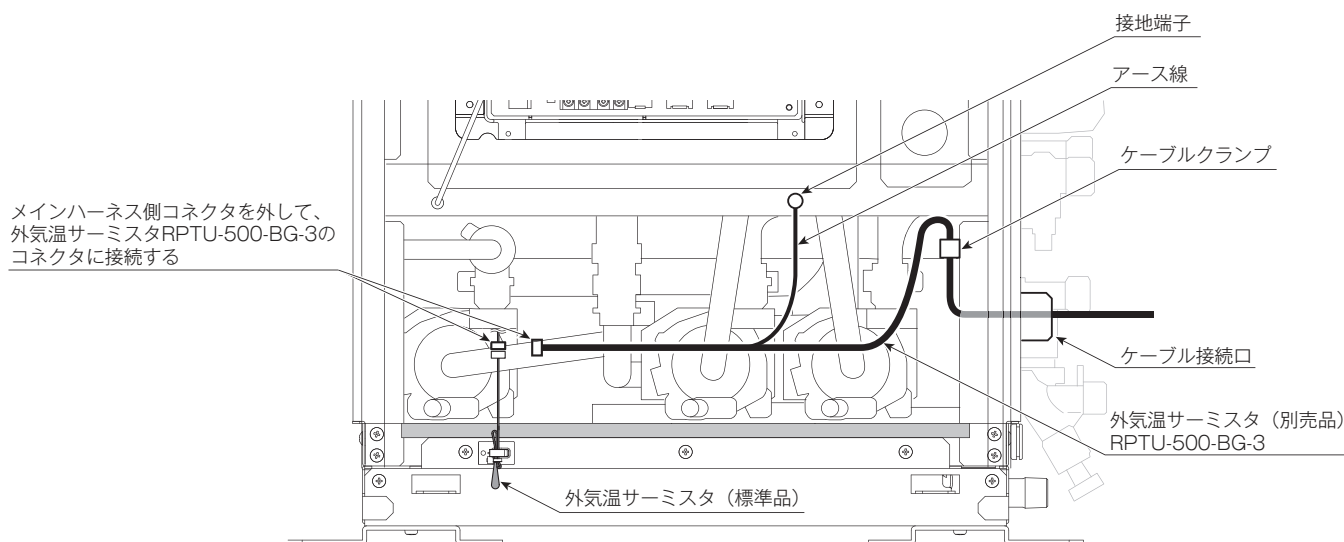
配線 4

外気温サーミスタの取り替え工事

- タンクユニットを屋内設置する場合、外気温サーミスタを別売品の「外気温サーミスタ RPTU-500-BG-3」に取り替え屋外に移動させます。(屋内設置の場合、外気温度が測定できないため)

1 外気温サーミスタの取り替え

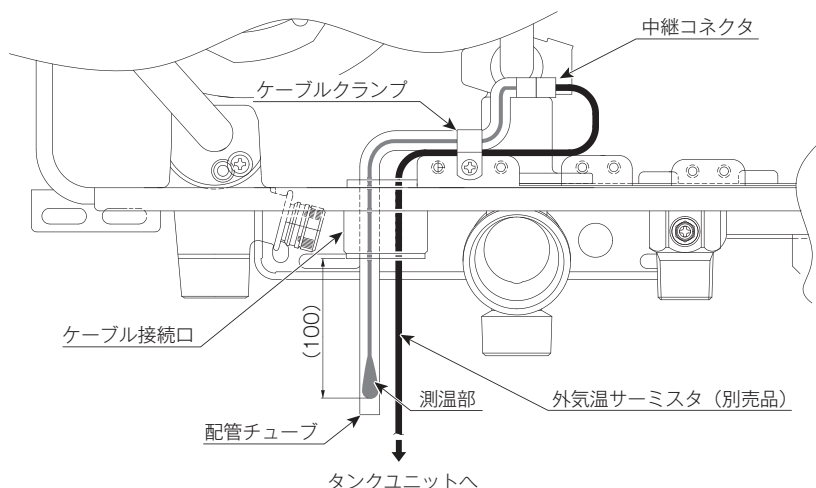
- 外気温サーミスタ (別売品) のコネクタ側をタンクユニット右側面のケーブル接続口から通します。
- 外気温サーミスタ (標準品) のコネクタを取り外し、外気温サーミスタ (別売品) にはめ替えます。
- 外気温サーミスタ (別売品) のアース線を本体内の接地端子 (「E」の文字で表示) にねじで固定し、配線をケーブルクランプで固定してください。



〔外気温サーミスタの取り替え (タンクユニット内)〕

2 外気温サーミスタ (別売品) の取り付け

- 外気温サーミスタ (別売品) の測温部側をガス熱源機に引き回します。(ガス熱源機 2 台設置の場合はガス熱源機 1・2 どちらでもかまいません)
- 外気温サーミスタ (別売品) の中継コネクタ部をガス熱源機のケーブル接続口から通し測温部のみ外部になるように配置しケーブルクランプで固定します。
- 測温部はガス熱源機から 100mm 飛び出す位置に設置してください。



〔外気温サーミスタ (別売品) の取り付け (ガス熱源機内)〕

点検 1 設置工事後の確認

- 設置工事が終わりましたらもう一度確認してください。

機器およびその周辺

- ガス熱源機と可燃物との離隔距離および防火上の措置は十分ですか。
- ガス熱源機と障害物、開口部との離隔距離は十分ですか。
- 点検・修理に必要な空間は確保されていますか。
- 機器は所定の方法で基礎にしっかりと固定されていますか。
- 中間階・上層階設置の場合は、転倒防止金具（別売品）でタンクユニットを固定していますか。
（中間階・上層階の定義は 16 ページ参照）
- 機器のカバーに傷・変形・汚れはありませんか。
- 各リモコンの取り付け状態は正常ですか。
- 別売部品は設置工事説明書で指定されているものを使用しているか確認してください。また設置工事説明書で指定されていない別売部品についても、適切なものを使用しているか確認してください。

水配管

- 配管接続は正しいですか。
- 排水配管先端は大気開放された排水枡、溝などに導かれていますか。（29 ページ参照）
- 排水配管の勾配は 1/50 以上ですか。（29 ページ参照）
- 凍結防止・結露防止工事は行いましたか。

ガス配管

- ガス配管にガス漏れがないことを確認してください。

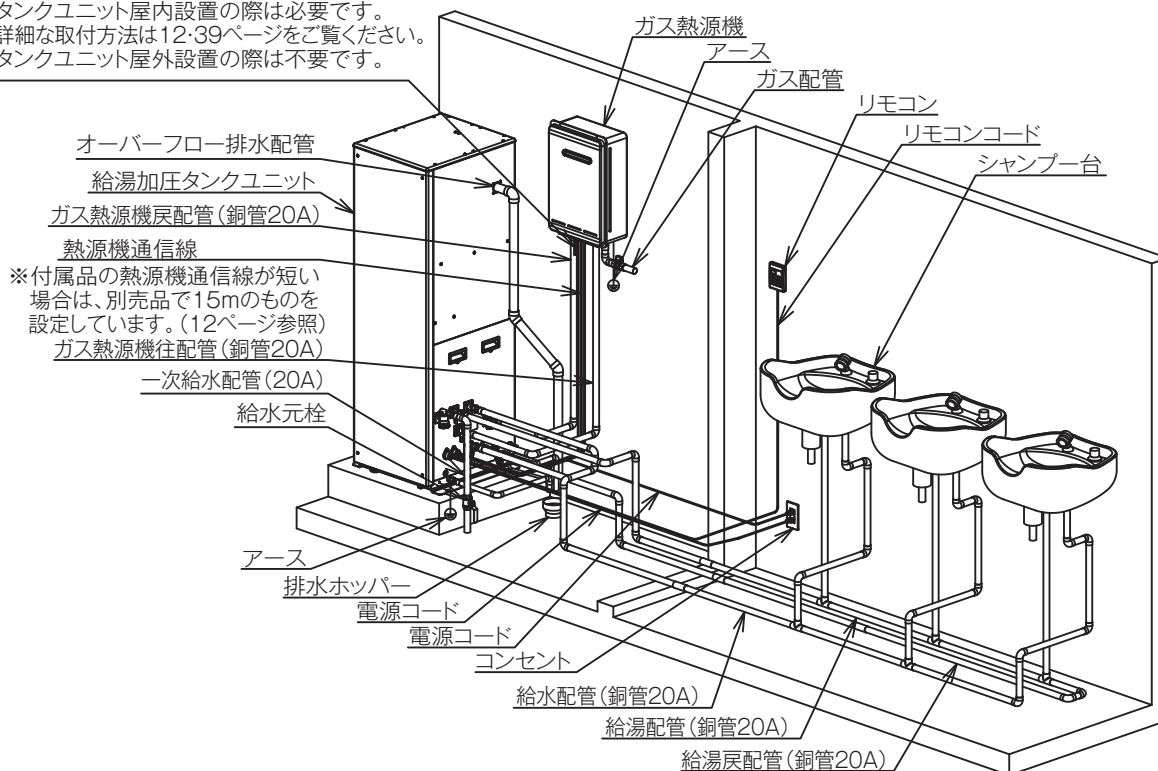
電源

- 使用する電源電圧（単相 2 線式 AC100V）が適合していますか。

設置イメージ

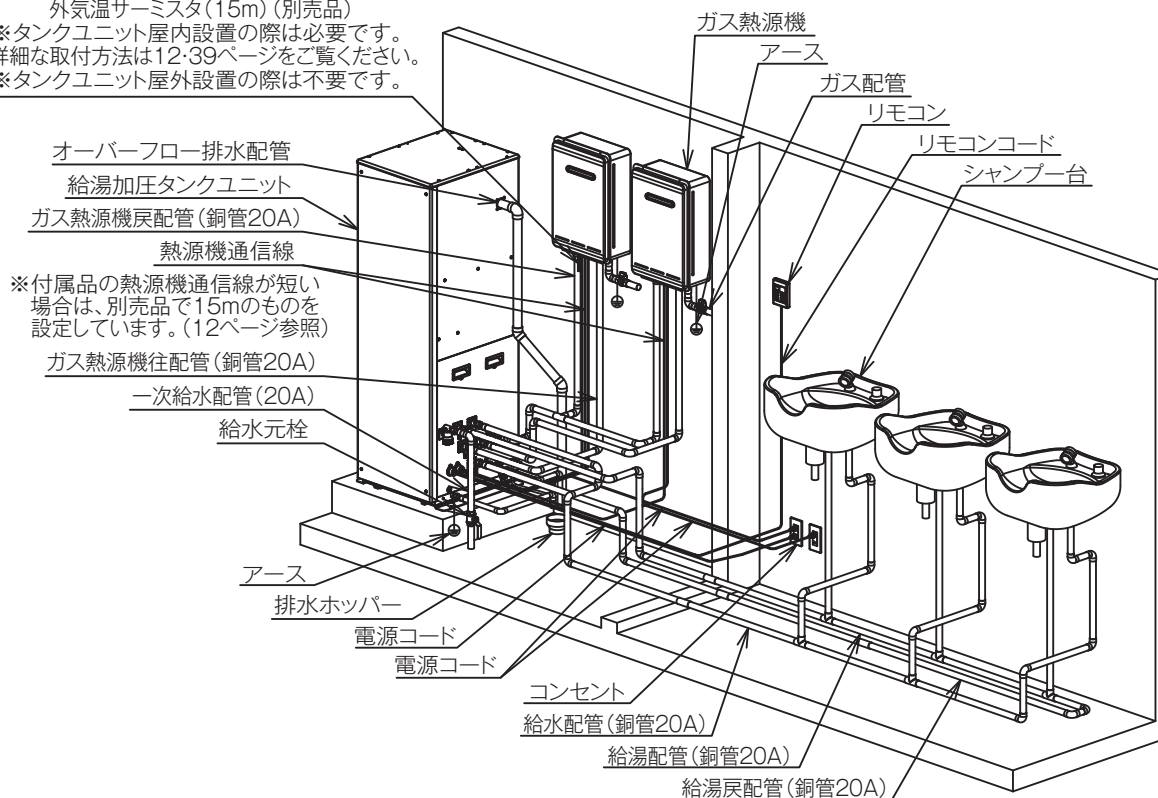
(ガス熱源機1台設置の場合)

外気温サーミスタ(15m) (別売品)
 ※タンクユニット屋内設置の際は必要です。
 詳細な取付方法は12・39ページをご覧ください。
 ※タンクユニット屋外設置の際は不要です。



(ガス熱源機2台設置の場合)

外気温サーミスタ(15m) (別売品)
 ※タンクユニット屋内設置の際は必要です。
 詳細な取付方法は12・39ページをご覧ください。
 ※タンクユニット屋外設置の際は不要です。



水はり 1 水はり説明

このシステムの試運転は施工完了後に施工業者様にて行ってください。

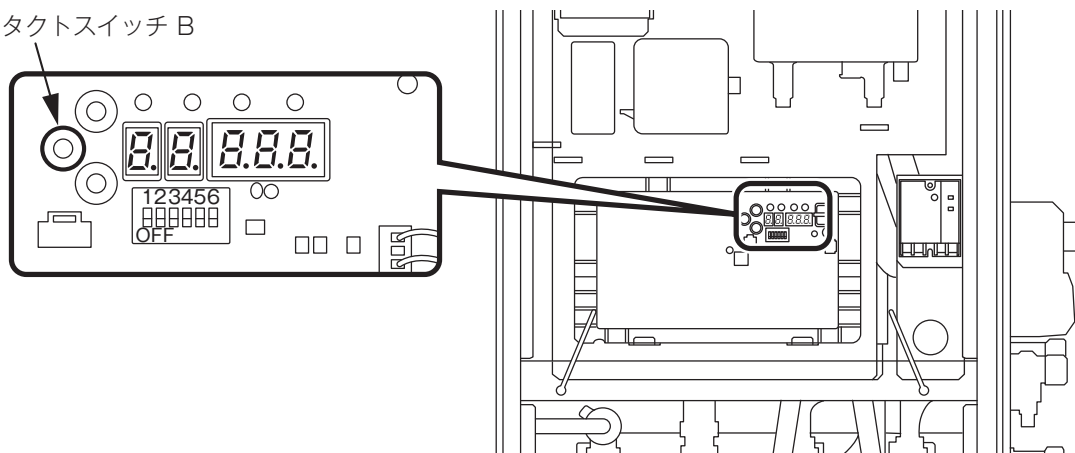
●水はりには下記の工程があります。

- 準備
- タンクの水はり
- 給湯戻配管の水はり
- ガス熱源機の水はり
- ストレーナの清掃
- 水はり完了の記憶

●水はりではタンク基板上に設置されているタクトスイッチ B を利用します。

（タクトスイッチ B は 7 セグ表示部の左横に設置されています）

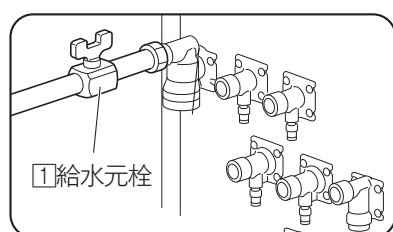
タクトスイッチ B



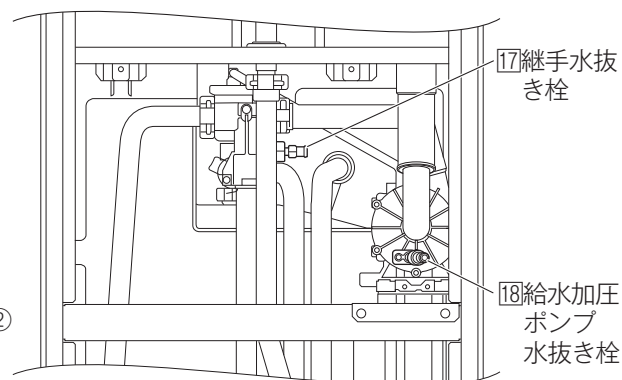
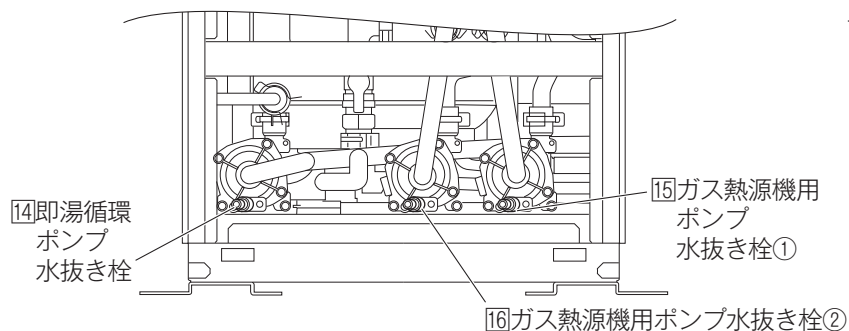
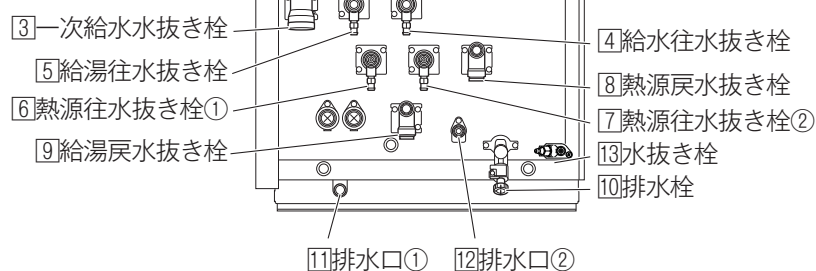
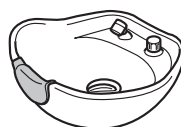
水はり2 準備

- ①タンクユニットの前板をはずします。
- ②①給水元栓、②シャンプー台カラン、タンクユニットの水抜き栓③～⑮（下図参照）、ガス熱源機の水抜き栓②①（下図参照）の他、シャンプー台の水抜き栓などシステム内の水抜き栓をすべて閉じます。

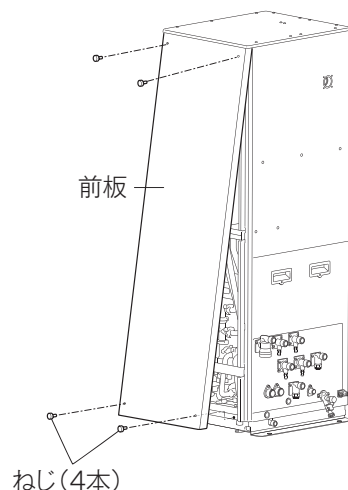
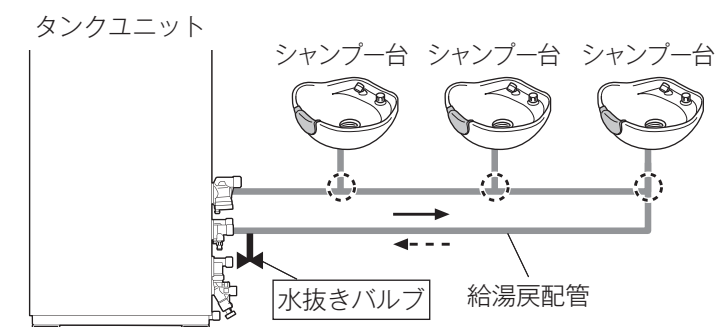
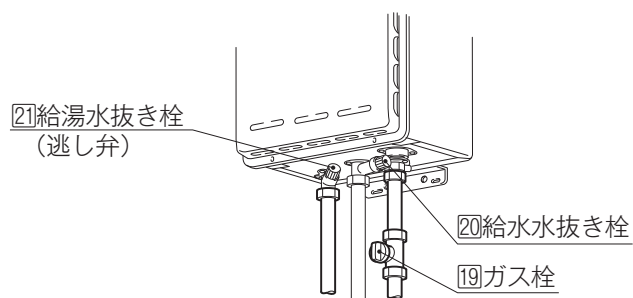
- ③タンクユニット屋内設置の場合、「配管 4 ② ④給湯配管」の工程で設置した水抜きバルブも閉じてください。



シャンプー台
②シャンプー台カラン



ガス熱源機の水抜き栓位置



水はり 3 タンクの水はり

- この工程では①一次給水配管、タンクユニット（給水タンク、貯湯タンク）、④給湯配管、⑤給水配管、シャンプー台への水はりをします。

①タンクユニットとガス熱源機の電源を入れます。

②一次給水の給水元栓を開きます。

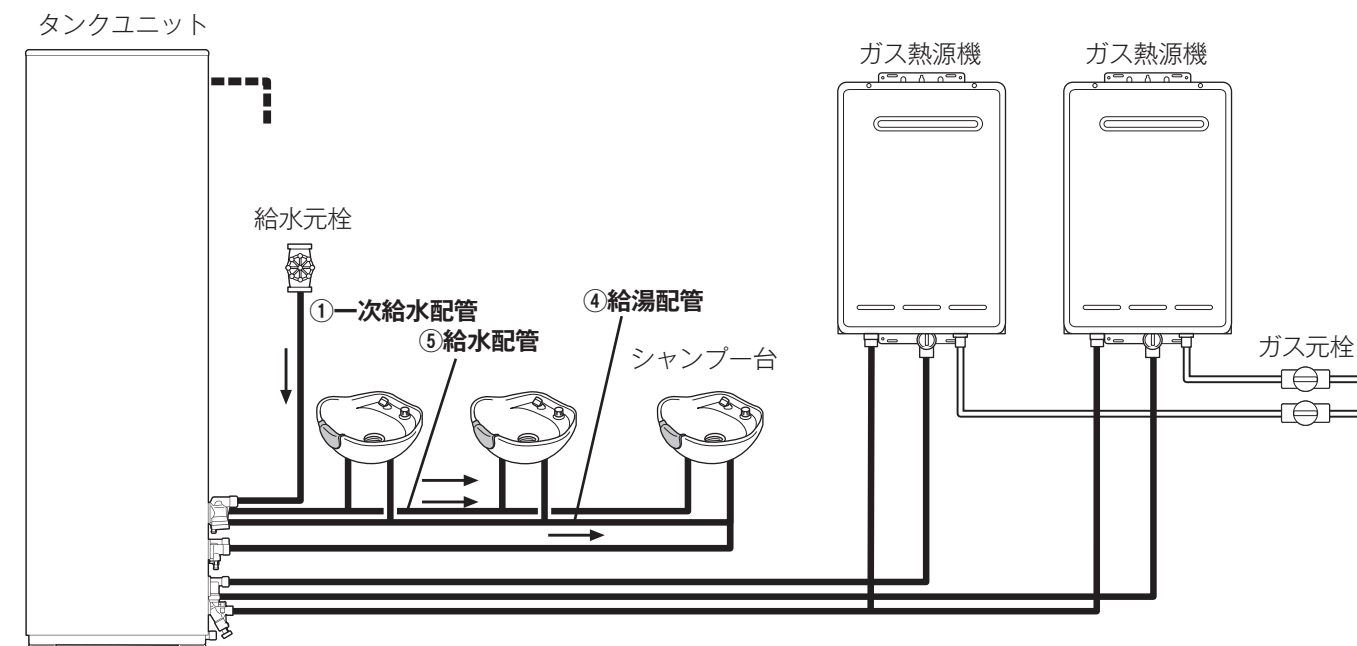
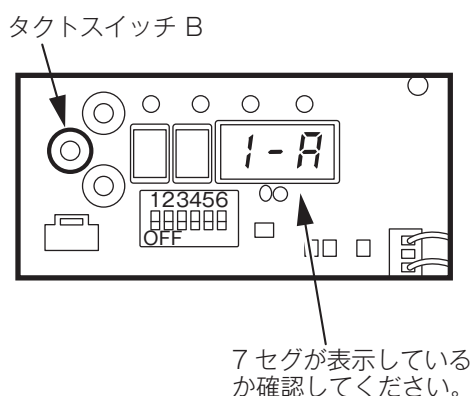
③すべてのシャンプー台カランを全開にします。

（サーモカランは湯側設定にしておきます）

④タンクユニット内のユニット基板のタクトスイッチ B を 1 回長押しします。（7 セグ表示部に「1-A」と表示されます）

- ・水はり動作（給水タンクへの水はり、給水加圧ポンプ作動）が開始されます。
- ・ある程度水はりされると、給水加圧ポンプが作動しタンク内に水を送り込みます。
- ・その後、シャンプー台カランから水がでます。

⑤しばらくしてシャンプー台カランにエアーが混ざらなくなりましたら、全数のカランを閉じ、次工程【水はり 4 給湯戻配管の水はり】にすすんでください。（エアーが抜けるのに要する時間 約 3 分）

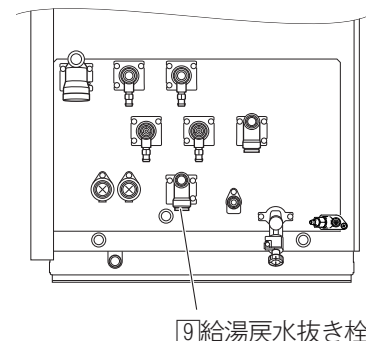
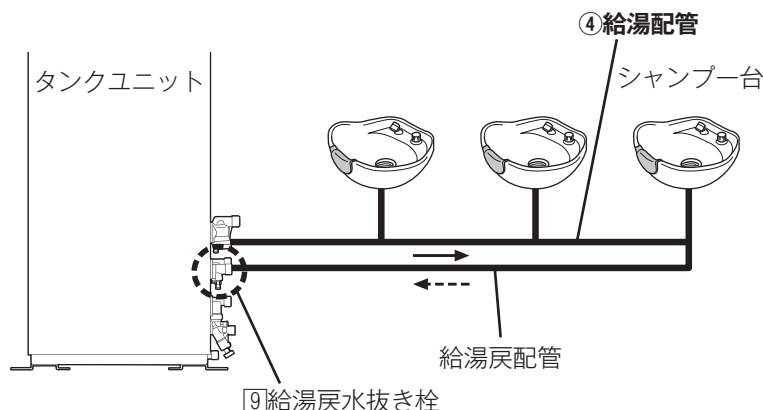


水はり 4 給湯戻配管の水はり

- この工程では④給湯配管の最端シャンプー台からタンクへループしている配管の水ほりをします。
(シャンプー台からタンクへループしている給湯配管を給湯戻配管と呼びます)

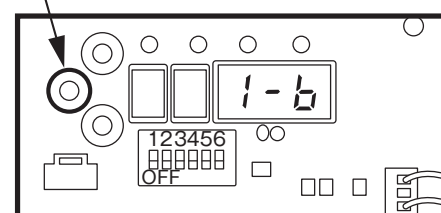
〔タンクが屋外設置の場合〕

- ①タクトスイッチ B を 4 回長押しします。(7 セグ部が「消灯」します)
・水はり動作が中断されます。
- ②⑨給湯戻接続口の水抜き栓を開けます。



- ③タクトスイッチ B を 1 回長押しします。(7 セグ部に「1-A」と表示されます)
・水はり動作が開始されます。
・エアーが抜けた後、水が勢いよく吹き出ます。事前に水飛び養生を行っておいてください。
(エアーが抜けるのに要する時間 約 1 分)
- ④⑨給湯戻水抜き栓部にエアーが混じらなくなりましたら、タクトスイッチ B を 4 回長押しします。
(7 セグ部が「消灯」します)
・水はり動作が中断されます。
- ⑤この状態で⑨水抜き栓を閉じてください。
- ⑥水抜き栓を閉じましたら、タクトスイッチ B を 2 回長押しします。(7 セグ部に「1-b」と表示されます)
・水はり動作、即湯循環ポンプが作動します。

タクトスイッチ B

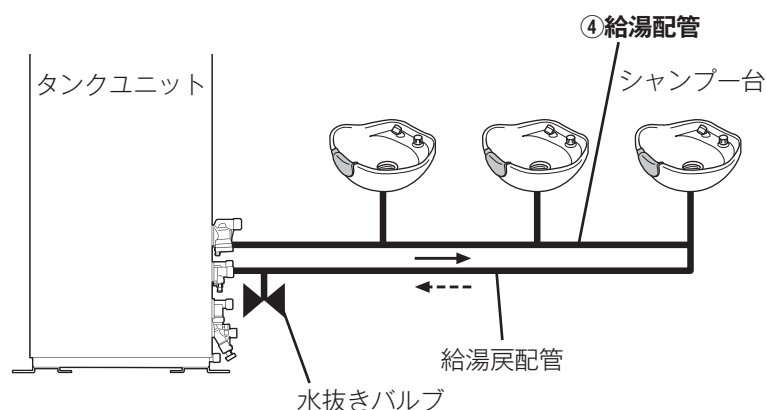


- ⑦④給湯（給湯戻含む）回路のエアーが抜けたら【3. 給湯戻配管の水はり】は終了です。
…エアーの抜けは配管通水音で確認してください。(エアーが抜けるのに要する時間 約 1 分)

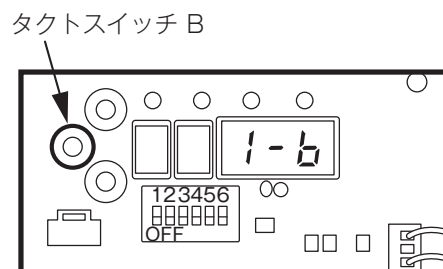
次工程「水はり 5 ガス熱源機の水はり」にすすんでください。

〔タンクが屋内設置の場合〕

- タンクユニット屋内設置の給湯戻配管には水抜きバルブが設置されています。
（「配管 4 ② ④給湯配管」の工程）



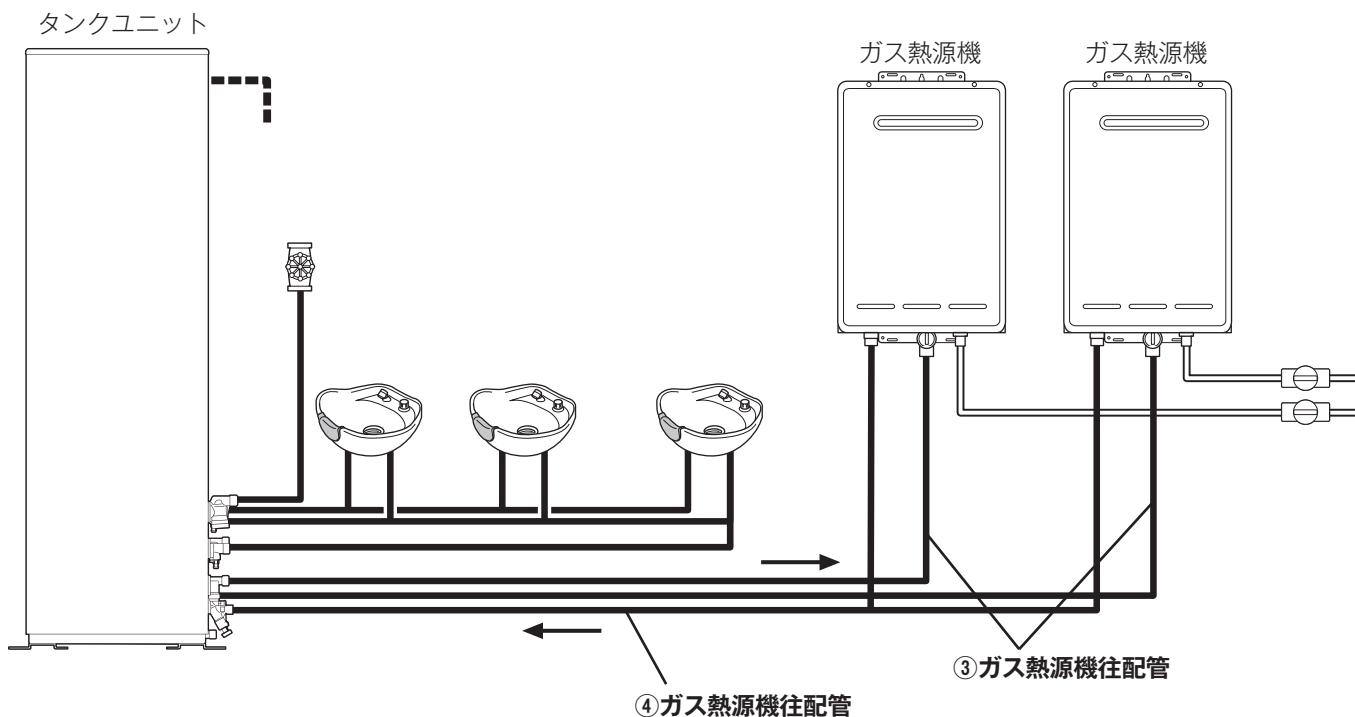
- ① 7 セグ表示「1-A」状態のまま、設置した水抜きバルブを開きます。
・ エアーが抜けた後、水が勢いよく吹き出ます。容器で受け取るか、バルブの先端にホースを取り付け排水してください。
- ② バルブにエア어가混じらなくなりましたら。バルブを閉じてください。
（エア어가抜けるのに要する時間 約 1 分）
- ③ タクトスイッチ B を 1 回長押しします。（7 セグ部に「1-b」と表示されます）
・ 即湯循環ポンプが作動します。



- ④ ④給湯（給湯戻含む）回路のエア어가抜けたら【水はり 4 給湯戻配管の水はり】は終了です。
…エア어의抜けは配管通水音で確認してください。
（エア어가抜けるのに要する時間 約 1 分）
次工程「水はり 5 ガス熱源機の水はり」にすすんでください。

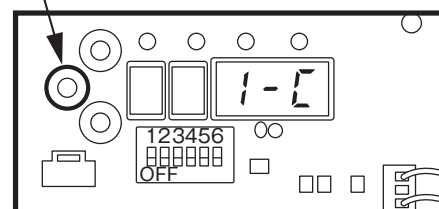
水はり 5 ガス熱源機の水はり

- この工程では②ガス熱源機往配管、③ガス熱源機戻配管、ガス熱源機の水ほりをします。

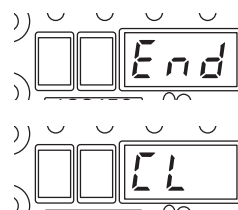


- ①タクトスイッチ B を 1 回長押しします。(7 セグ部に「1- C」と表示されます)
 - ・即湯循環ポンプが停止し給湯器用ポンプが作動します。
 - ・ガス熱源機が 2 台設置されている場合には給湯器用ポンプ①②が作動します。
- ②ガス熱源機回路のエアが抜けたら【水はり 5 ガス熱源機の水はり】は終了です。
 …エアの抜けは配管通水音で確認してください。
 (エアが抜けるのに要する時間 約 3 分)

タクトスイッチ B



- ③次にタクトスイッチ B を 2 回長押しします。
 - ・給水加圧ポンプ、給湯器用ポンプが停止します。



- ④次工程「水はり 6 ストレーナの清掃」にすすんでください。

水はり6 ストレーナの清掃

- タンクユニットとガス熱源機の給水水抜き栓に取り付けられているストレーナの清掃をします。

〔タンクユニットのストレーナ清掃〕

- タンクユニットでは ③ 一次給水水抜き栓部にストレーナが付属しています。
- ③ 一次給水水抜き栓を取り外しますが、この箇所には給水圧が印加されているためはずしにくいです。次の工程に従い取り外してください。

(給水圧の除去)

- ①タクトスイッチ B を 1 回長押しします
(7 セグ部に「1-A」と表示されます)

- ②次にシャンプー台カランを開きます。
・給水電磁弁が開き給水タンクに給水が開始されます。

- ③給水電磁弁が開いた状態で ① 給水元栓を閉めます。
・これで水抜き栓部に給水圧がかからなくなりました。

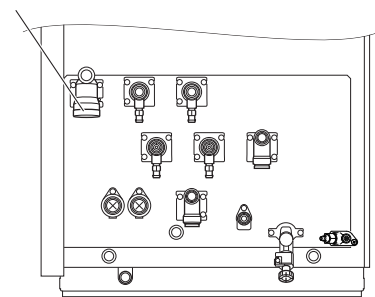
- ④シャンプー台カランを閉じます。

- ⑤タクトスイッチ B を 4 回長押しします。(7 セグ部が「消灯」します)

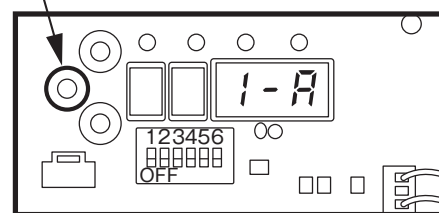
(ストレーナの清掃)

- ⑥③一次給水水抜き栓を左に回して取り外し、ストレーナを清掃します。
- ⑦清掃後、③ 一次給水水抜き栓を取り付けてください。

③一次給水水抜き栓



タクトスイッチ B



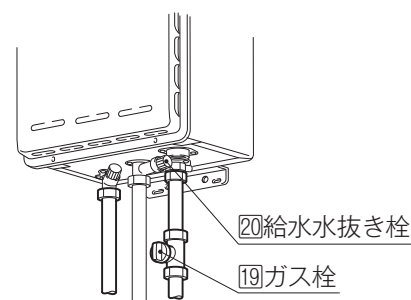
〔ガス熱源機のストレーナ清掃〕

- ガス熱源機では ⑳ 給水水抜き栓部にストレーナが付属しています。

- ①左に回して取り外し、ストレーナを清掃します。

- ②清掃後、⑳ 給水水抜き栓を取り付けてください。

- ③① 給水元栓を開いてください。



水はり7 水はり完了の記憶

- この工程ではタンクユニット基板に「水はり工程完了」を記憶させます。
- 記憶された時点で通常の運転が開始します。(燃焼許可、凍結防止運転作動)

※「水はり工程完了」の記憶

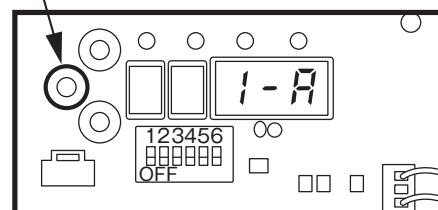
「1-A」「1-b」「1-C」それぞれの状態を 60 秒以上経験することで「水はり工程完了」と基板が記憶します。

ただし、再度「1-A」状態を経験すると完了の記憶はクリアされてしまいます。

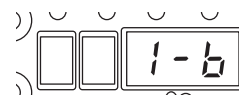
〔手順〕

- ①タクトスイッチ B を 1 回長押しします。(7 セグ部に「1-A」が表示されます)
・この状態で 60 秒以上経過させます。

タクトスイッチ B



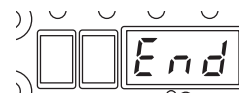
- ②タクトスイッチ B を 1 回長押しします。(7 セグ部に「1-b」が表示されます)
・この状態で 60 秒以上経過させます。



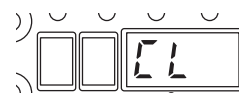
- ③タクトスイッチ B を 1 回長押しします。(7 セグ部に「1-C」が表示されます)
・この状態で 60 秒以上経過させます。



- ④タクトスイッチ B を 1 回長押しします。
・7 セグ表示部に「End」が表示されます。
・これで「水はり工程完了」が記憶されました。



※水はり未完了の場合は CL が表示されます。タクトスイッチ B を 2 回長押しし、再度「1-A」状態からやり直してください。

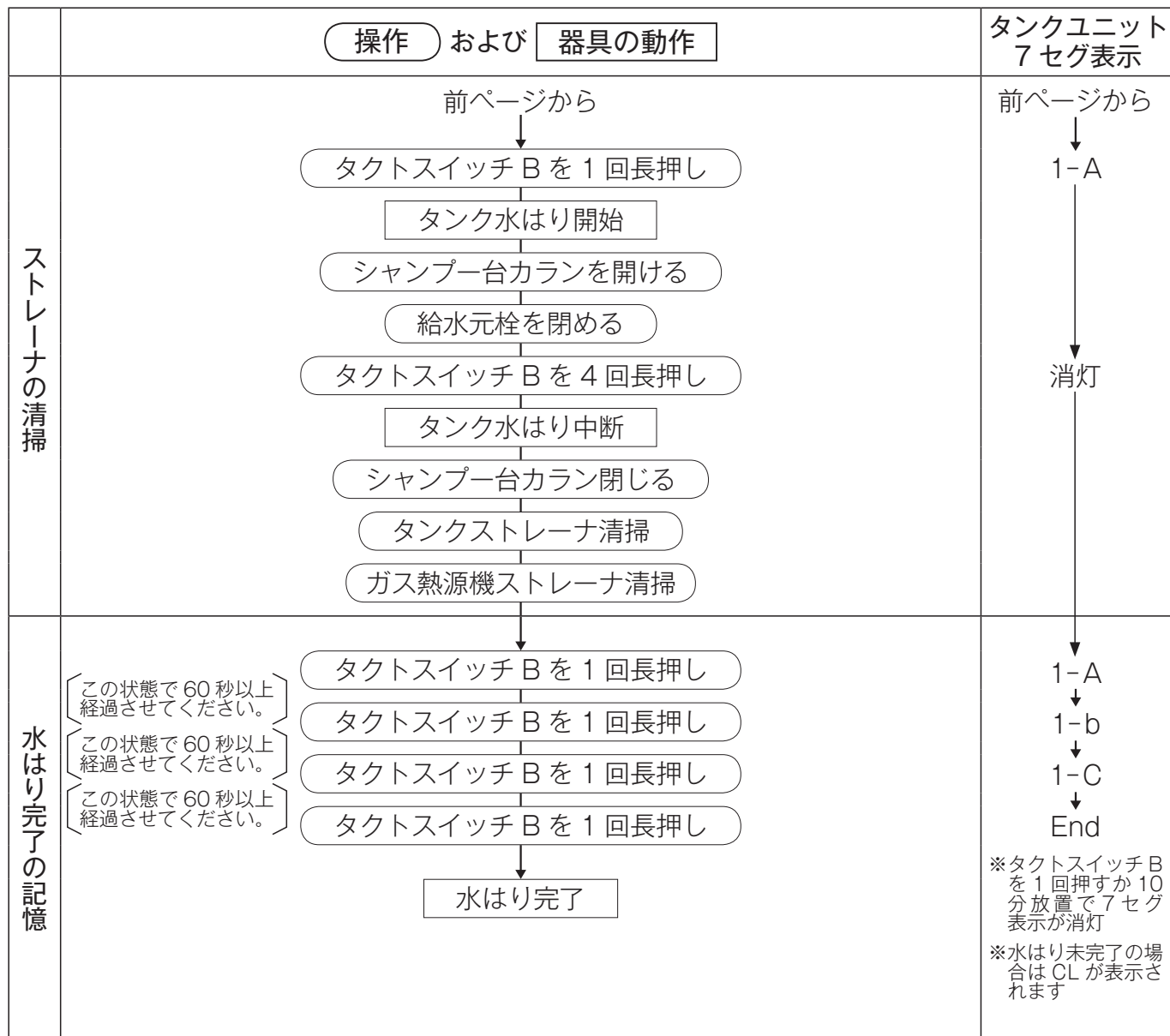


- これで「水はり工程」がすべて完了しました。

水はり 8 水はり工程操作のまとめ

●「水はり工程操作」を表にまとめました。

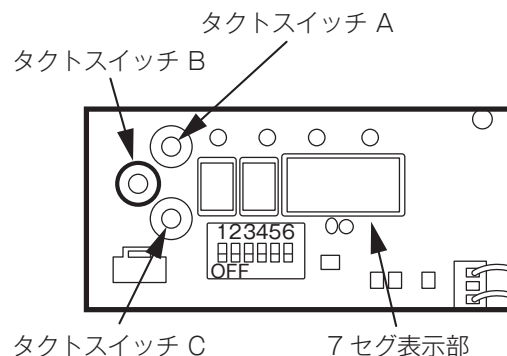
	操作 および 器具の動作	タンクユニット 7セグ表示
準備	前板をはずす すべての排水栓・水抜き栓を閉める タンクユニット・ガス熱源機の電源投入	
タンクの水はり	給水元栓を開ける シャンプ一台カランをすべて全開にする タクトスイッチ B を 1 回長押し タンク水はり開始 シャンプ台カランをすべて閉じる 十分に空気が抜けるまで最低 180 秒以上通水してください。	1-A
給湯戻配管の水はり	〔タンク屋外設置〕 タクトスイッチ B を 4 回長押し タンク水はり中断 給湯戻水抜き栓を開ける タクトスイッチ B を 1 回長押し タンク水はり開始 タクトスイッチ B を 4 回長押し タンク水はり中断 給湯戻水抜き栓を閉じる タクトスイッチ B を 2 回長押し 給湯戻回路の水はり 十分に空気が抜けるまで最低 60 秒以上通水してください。 〔タンク屋内設置〕 給湯戻バルブを開ける 給湯戻バルブを閉じる タクトスイッチ B を 1 回長押し 給湯戻回路の水はり	〔屋内〕 消灯 1-A 消灯 1-b 1-b
ガス熱源機の水はり	タクトスイッチ B を 1 回長押し ガス熱源機回路の水はり タクトスイッチ B を 2 回長押し タンク水はり中断 次ページへ	1-C 消灯 次ページへ



設定

機器の設定

- 機器の設定ではタクトスイッチ A・B・C を使用します。



〈操作方法〉

- タクトスイッチ A を 3 回押します。
(例) 7 セグ表示部に [01] [A] と表示されます。
※左枠の数字がタクトナンバーで右枠のアルファベットが設定内容です。
- タクトスイッチ B を押すとタクトナンバーが変更できます。
- タクトスイッチ C を押すと設定内容が変更できます。
- タクトスイッチ A をもう 1 回押すと消灯し、変更内容が確定します。

〈設定項目〉

タクト ナンバー	項目	設定内容			
		A	b	C	d
1	湯・水配管長さ設定	6m 未満	6 ～ 12m	12 ～ 17.5m	使用禁止
2	ガス熱源機配管長さ設定	5m 未満	5 ～ 10m	10 ～ 15m	使用禁止
4	水圧モード	高水圧	標準	低水圧	節水
5	エラープザー出力	有	無	—	
6	即湯強制循環	循環あり	循環なし	—	
7	タンク屋外・屋内設定	屋外設置	屋内設置	—	
8	ガス熱源機 機種選定	16 号	24 号		

- 上記設定項目を任意の設定内容に設定してください。

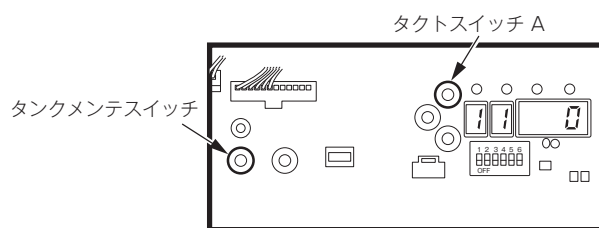
試運転 1 燃焼確認

- ガス熱源機の燃焼確認をします。
 - ① ガスの元栓を開けます。
 - ② リモコンの運転スイッチを「入」にします。(7 セグ表示部が点灯します)
 - ・ ガス熱源機 1or2 が燃焼を開始します。
 ※ガス熱源機 1 ・ ガス熱源機 2 がそれぞれ動作することを確認してください。タンクユニットとガス熱源機の配線を間違えるとガス熱源機が燃焼しません (32・33 ページ参照)
 - ③ すべてのシャンプー台カランを開けてください。
 - ・ ガス熱源機 1 & 2 で燃焼を開始します。
 ※水量が少ない場合は 2 台燃焼とならない場合もあります
 - ④ 燃焼に問題ないか確認してください。
 - ⑤ カラン温度が設定した温度になっていることを確認してください。

試運転 2 流量確認

- シャンプー台に流れる流量の確認をします。
 - ※流量が多い場合は前ページ「設定 機器の設定」の水圧モードの設定を下げます。
- 〈流量確認手順〉
 - ① リモコンの運転スイッチを「入」にします。(7 セグ表示部が点灯します)
 - ② タンクユニット タクトスイッチ A を 2 回押します。(メンテモニタ機能)
 - ・ 7 セグ表示部の左枠に「11」と表示されます。
 ※左枠の数字はメンテナンス番号です。「11 番」は「使用流量」です。右枠の数字は現在の使用流量を表示しています。
 - ③ 7 セグ左枠表示が「11」でない場合はタクトメンテスイッチを数回押して「11」を表示させてください。
 - ④ すべてのシャンプー台カランを全開にします。
 - ⑤ 7 セグの右枠の表示を確認します。(表示の流量単位は L/min です)
 - ⑥ 確認した数値が目的の数量となるように水圧モードを設定してください。
 - 尚、確認した数値が下記条件以上であれば水圧モードの設定を下げてください。
 - (設定方法は前ページ「設定」「機器の設定」を参照)

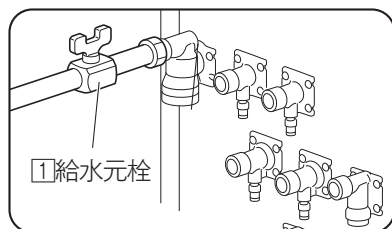
シャンプー台設置台数	使用流量 max 値
1	12
2	24
3	30
4	35



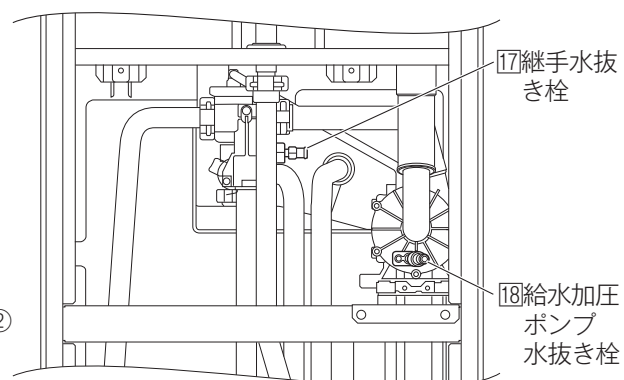
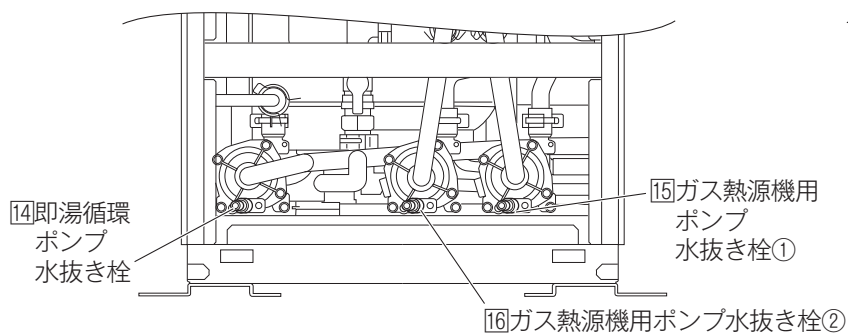
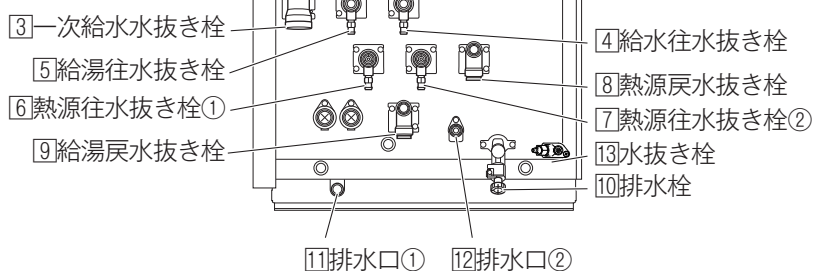
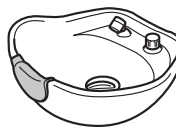
- 通水後、お客様が使用されるまでの期間電源を切ったまま放置するときは、配管や機器内に残った水の凍結で機器が破損する恐れがありますので完全に水を抜きとってください。（凍結の状況によっては、タンクユニットガス熱源機が破損する恐れがあります。）

〈タンクユニット・ガス熱源機の水抜き〉

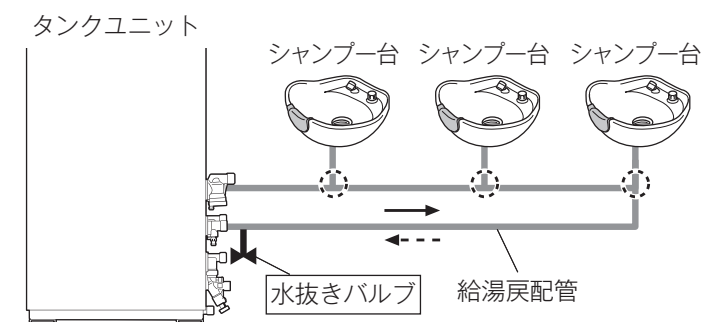
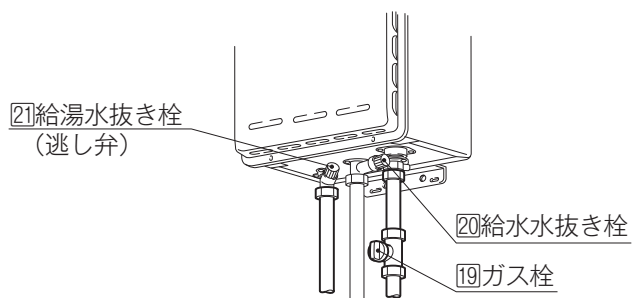
- ①タンクユニットの前板を外してください。
- ②⑩ガスの元栓と①給水元栓を閉めてください。
- ③すべての②シャンプー台カランを開けてください。
- ④⑩排水栓と⑬水抜き栓を開けてください。（排水マスに排水されます）
次に⑤給湯往水抜き栓を開けてください。（水が出る場合がありますので、屋内設置の場合は容器で受けてください）
- ⑤水が抜けきりましたらガス熱源機水抜き栓⑳㉑を開けてください。
- ⑥水が抜けきりましたらタンクユニット水抜き栓④⑥⑦⑧⑨を開けてください。
（水が出ますので、屋内設置の場合は容器で受けてください）
タンクユニット屋内設置の場合、「配管 4②④給湯配管」の工程で設置した水抜きバルブも開けてください。
- ⑦タクト SWC を長押しして「2-A」を表示させた後、③一次給水水抜き栓を開けてください。
（水が出ますので、屋内設置の場合は容器で受けてください）
タクト SWC を再度、長押しして「End」を表示させてください。
- ⑧タンクユニット内部の水抜き栓⑭⑮⑯⑰⑱を開けてください。
（水が出ますので、屋内・屋外設置に関わらずは容器で受けてください）
- ⑨タクト SWB を 5 回長押ししてください。（順番に「1-A」「1-b」「1-C」「CL」「消灯」が表示されます）



2 シャンプー台カラン

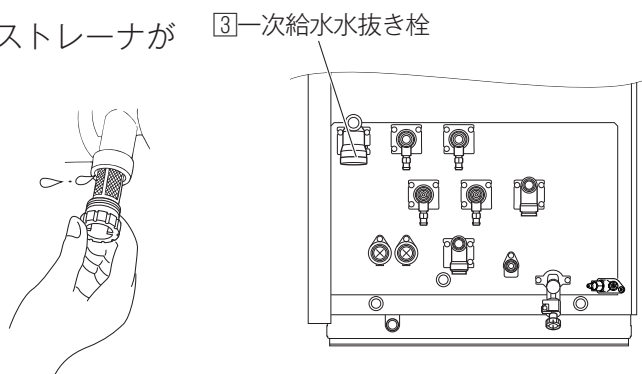


ガス熱源機の水抜き栓位置



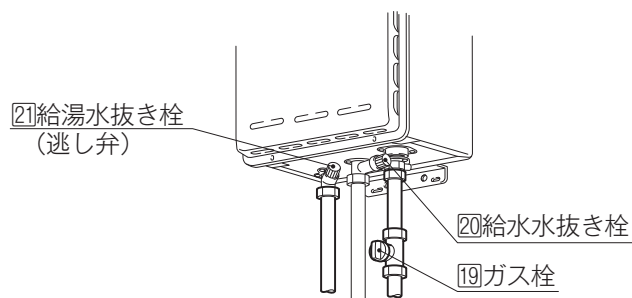
〔タンクユニットのストレーナ清掃〕

- タンクユニットには③一次給水水抜き栓部にストレーナが
付属しています。
- ストレーナの清掃を行ってください。



〔ガス熱源機のストレーナ清掃〕

- ガス熱源機では②給湯水抜き栓部にスト
レーナが付属しています。
- ストレーナの清掃を行ってください。

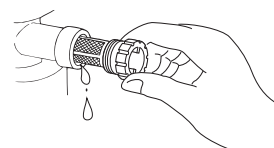


〔排水栓・水抜き栓〕

- 水抜き後、排水栓・各水抜き栓は開けたま
まにしておいてください。

〔電源の確認〕

- タンクユニット・ガス熱源機の電源を OFF してください。
(電源プラグを抜く。分電盤の配線用遮断器を OFF する。)



〔水抜き後の水はり〕

- 水抜き後、機器を使用開始する際には機器の水はりが必要です。
- 水はり 1 ～ 8 (42 ～ 51 ページ) の手順に沿って行ってください。

確認 1 試運転後の確認

- 試運転が終わりましたら、もう一度確認してください。
 - ①ストレーナの清掃は行いましたか。(48 ページ参照)
 - ②すべての水抜き栓を元通り閉めましたか。(栓の位置の概要は 43 ページ参照)
 - ③機器のカバー類をしっかりと閉めましたか。(43 ページ参照)

確認 2 お客様への説明

取扱説明書に沿って、お客様に使用方法を説明してください。特に安全上のご注意や使いかた・日常点検・お手入れのしかたなどを説明してください。
この設置工事説明書は取扱説明書と共にお客様にお渡しして、大切に保管していただくように依頼してください。

RPTU-500-BG2



070 00012 84359 9

U353-0810(03) 